

科目名： <UGS002> 日本国憲法
担当教員： 山口 明子(YAMAGUCHI Akiko)

【授業の紹介】

日本国憲法の最大の目的である個人の尊厳や人権について理解を深め、憲法を頂点とする法体系が、私たちの日常生活にどの様に関連しているのかを解説する。さらに、受講生自身がアクティブラーニングを通して憲法の意義や重要性を考え明確にしていく。また、上記のような講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- ・ グローバル化する国際社会の中で、大切なキーワードとなっている人権について理解を深め、正しい知識を習得する。
- ・ 憲法を学ぶことで、受講生自身が市民社会の一員であることを自覚し、より良い自己や社会の実現につなげていくための知恵や力を身に着けることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 人権を考えるための基礎知識
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 幸福追求権
- 第4回 法の下での平等
- 第5回 思想・良心の自由
- 第6回 信教の自由・政教分離
- 第7回 表現の自由
- 第8回 職業の自由
- 第9回 学問の自由・大学の自治
- 第10回 生存権
- 第11回 教育を受ける権利
- 第12回 労働権
- 第13回 財産権
- 第14回 移動の自由・奴隷的拘束からの自由・法定手続の保障・裁判を受ける権利
- 第15回 選挙権

【授業時間外の学習】

授業の予習・復習(2時間/週)。社会問題や身近な社会事象について、積極的に関心を持ち、新聞やニュースから情報を取り入れる(2時間/週)。これらを憲法的・人権的観点から分析する訓練をする。

【成績の評価】

定期試験40%、平常点(小テスト、コメント票、授業態度など)60%で総合的に評価する。レポート・小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

宍戸 常寿(著, 編集)『18歳から考える人権』法律文化社(2015)等

科目名： <UCI102> 情報基礎演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI102> 情報基礎演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない。

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ関係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ関係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UHH001> 健康とスポーツ
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深める。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
 - 第2回 健康を取り巻く環境についての理解
 - 第3回 健康情報とヘルスリテラシー
 - 第4回 幼少期～成長期の健康問題
 - 第5回 成人期～高齢期の健康問題
 - 第6回 死生観と生命倫理
 - 第7回 健康と運動・労働
 - 第8回 健康と食事・栄養
 - 第9回 健康と休養・睡眠
 - 第10回 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康
 - 第11回 運動の科学と健康
 - 第12回 体力の評価と分析
 - 第13回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり
 - 第14回 持続可能な健康づくり
 - 第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・出席確認のためのミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜資料を配付する。

科目名： <UHH002> 健康とスポーツ実習【発A】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironmu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、「解釈」概念から文化を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技（アルティメット）ならびにバドミントンを題材として、スポーツの楽しさを理解したり、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 「解釈」概念からスポーツの文化性を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文化の概念およびその表現
 - 第3回 新スポーツの企画
 - 第4回 ルールの考案
 - 第5回 発表と実践（1）：グループA
 - 第6回 発表と実践（2）：グループB
 - 第7回 アルティメット（1）：楽しさに触れる
 - 第8回 アルティメット（2）：楽しさを表現する
 - 第9回 バドミントン（1）：楽しさに触れる
 - 第10回 バドミントン（2）：楽しさの構造を検討する
 - 第11回 バドミントン（3）：楽しさの表現方法を検討する
 - 第12回 バドミントン（4）：楽しさを表現する [グループA]
 - 第13回 バドミントン（5）：楽しさを表現する [グループB]
 - 第14回 バドミントン（6）：大人数で楽しむ方法を検討する
 - 第15回 バドミントン（7）：大人数で楽しむ
- 定期試験は実施しない

天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

科目名： <UHH002> 健康とスポーツ実習【発B】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、「解釈」概念から文化を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動を通して、スポーツの文化性について理解を深めます。次に、フリスビー競技（アルティメット）ならびにバドミントンを題材として、スポーツの楽しさを理解したり、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。なお、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。

この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」に対応しています。

【到達目標】

1. 「解釈」概念からスポーツの文化性を理解できる
2. 新スポーツを企画・実行できる
3. スポーツの楽しさを理解し表現できる
4. 他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文化の概念およびその表現
 - 第3回 新スポーツの企画
 - 第4回 ルールの考案
 - 第5回 発表と実践（1）：グループA
 - 第6回 発表と実践（2）：グループB
 - 第7回 アルティメット（1）：楽しさに触れる
 - 第8回 アルティメット（2）：楽しさを表現する
 - 第9回 バドミントン（1）：楽しさに触れる
 - 第10回 バドミントン（2）：楽しさの構造を検討する
 - 第11回 バドミントン（3）：楽しさの表現方法を検討する
 - 第12回 バドミントン（4）：楽しさを表現する [グループA]
 - 第13回 バドミントン（5）：楽しさを表現する [グループB]
 - 第14回 バドミントン（6）：大人数で楽しむ方法を検討する
 - 第15回 バドミントン（7）：大人数で楽しむ
- 定期試験は実施しない

天候によって実施種目を変更することがあります

【授業時間外の学習】

実習毎に、実習内容の振り返りや調べ学習課題（新スポーツの企画、表現課題の準備など）といった計15時間の時間外学習課題を指示します。

【成績の評価】

- ・表現課題 80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

表現課題については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこないます。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

科目名： <UCE101> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

- 基礎的な文法を確実に理解し、使うことができるようになる。
- まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
- 実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語のbe動詞
 - 第2回 一般動詞（現在）
 - 第3回 一般動詞（過去）
 - 第4回 進行形
 - 第5回 未来形
 - 第6回 助動詞
 - 第7回 名詞・冠詞
 - 第8回 代名詞
 - 第9回 前置詞
 - 第10回 形容詞・副詞
 - 第11回 比較
 - 第12回 命令文・感嘆文
 - 第13回 接続詞()
 - 第14回 不定詞()・動名詞()
 - 第15回 受動態
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。
2. 宿題として課された提出物の準備をすること。
3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

佐藤哲三、他 「大学生の英語入門」(南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE101> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

本授業の目的は「全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むこと」に慣れることです。意見サポート型、パラグラフ並列型、直線型及び異質パラグラフ型の4つのパターンに分類される英文エッセイを、全体の構造を考えながら読んで内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。また、教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった英文を読んで内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 1 Conclusion / Reasons A. Right-hand traffic or left-hand traffic?
第3回 1 Conclusion / Reasons B. Should consumption tax be raised?
第4回 2 Social Trend A. The increase of depression
第5回 2 Social Trend B. US birth rate is declining.
第6回 3 Result / Cause A. Casino law was passed.
第7回 3 Result / Cause B. Why does Korea keep the draft system?
第8回 4 Several Explanations A. What was the cause of Napoleon's death?
第9回 4 Several Explanations B. Springtime depression peak
第10回 5 Comparison A. College and university
第11回 5 Comparison B. A combined junior and senior high school and ordinary high school
第12回 6 For and Against A. A married couple having different surnames
第13回 6 For and Against B. School uniforms
第14回 7 Classification A. Lies
第15回 7 Classification B. Manga
定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Skills for Better Reading <Basic>（石谷由美子著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE101> 英語 【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction。
 - 第2回 Unit 1 Introductions
 - 第3回 Unit 1 Talking about yourself
 - 第4回 Unit 1 Occupations; in class speaking quiz
 - 第5回 Unit 2 Work and school
 - 第6回 Unit 2 Asking information
 - 第7回 Unit 2 Future plans; in class speaking quiz
 - 第8回 Writing module. Students will write about a selected topic
 - 第9回 Unit 3 Talking about "these" and "those"
 - 第10回 Unit 3 Shopping English
 - 第11回 Unit 3 Comparing items; in class speaking quiz
 - 第12回 Unit 4 Talking about genres of music/movies/TV
 - 第13回 Unit 4 Likes and dislikes
 - 第14回 Unit 4 Inviting people do things
 - 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCE102> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級問題の8割は解くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
- 第2回 比較()
- 第3回 接続詞()
- 第4回 5文型
- 第5回 各種疑問文
- 第6回 不定詞()
- 第7回 Itの特別用法
- 第8回 時制
- 第9回 関係代名詞(基本)
- 第10回 関係代名詞(発展)
- 第11回 完了形(結果、継続)
- 第12回 完了形(経験)
- 第13回 仮定法(基本)
- 第14回 仮定法(過去完了)
- 第15回 英語の重要構文と熟語
定期試験

【授業時間外の学習】

- 授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。
1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。
 2. 提出物の準備をすること。
 3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE102> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

本授業の目的は「全体的な構造を考えながら英文エッセイを読むこと」に慣れることです。英語に引き続き、意見サポート型、パラグラフ並列型、直線型及び異質パラグラフ型の4つのパターンに分類される英文エッセイを、全体の構造を考えながら読んで内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。また、教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 8 History A. Bill Gates |
| 第3回 | 8 History B. Steve Jobs |
| 第4回 | 9 Process A. How to make tempura |
| 第5回 | 9 Process B. How to make "niku-jaga (meat and potatoes)" |
| 第6回 | 10 Cause and Effect A. Work-style reforms |
| 第7回 | 10 Cause and Effect B. School meals |
| 第8回 | 11 Definition of a New Word A. Cool Japan |
| 第9回 | 11 Definition of a New Word B. Crowdfunding |
| 第10回 | 12 Research A. Self-esteem declines after retirement |
| 第11回 | 12 Research B. The more sleep, the happier |
| 第12回 | 13 New Products, New Service A. A nosy coin bank |
| 第13回 | 13 New Products, New Service B. Gerontaxi |
| 第14回 | 14 Reading Graphs A. Old people are irritated. |
| 第15回 | 14 Reading Graphs B. More middle-aged single people live with their parents. |

定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Skills for Better Reading <Basic>（（石谷由美子著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE102> 英語 【発う】

担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This is an introductory course in English. We will focus on listening speaking mainly, but we will also cover reading and writing. The course is a practical course, and students will be expected to use English in every class. We will follow the outline of the textbook. Students will learn to express themselves in English. The class will utilize an active learning model of teaching. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will study basic communicative skills associated with English as a Foreign Language.
2. Students will learn how to express themselves and their opinions in English
3. Students will study about cultural aspects as they relate to a foreign language a global affairs.
4. Students will given every opportunity to practice living in English with their native English instructor.

【授業計画】

- 第1回 Explanation of course; Instructor introduction
 - 第2回 Unit 5 Family
 - 第3回 Unit 5 Relationships
 - 第4回 Unit 5 Daily life; conversation quiz
 - 第5回 Unit 6 Exercising
 - 第6回 Unit 6 Doing things
 - 第7回 Unit 6 How much, How often, How well; conversation quiz
 - 第8回 Mid-term review (第1回～第7回までの復習)
 - 第9回 Unit 7 Free time
 - 第10回 Unit 7 At home
 - 第11回 Unit 7 Sightseeing; conversation quiz
 - 第12回 Unit 8 Talking about your neighborhood
 - 第13回 Unit 8 The basic names of shops and offices
 - 第14回 Unit 8 Describing an locale; conversation quiz
 - 第15回 test review
- Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given homework to prepare for the next week's lesson. This will require a total of 15 hours outside of class time to complete. Their work will be used for evaluation purposes at the beginning of the next class.

【成績の評価】

Students will get 30% of the points for their grade from participation in the class. The remainder of the 70% will come from a comprehensive final examination. Students' homework will be evaluated in the Final class at test review. Students will be given a basic evaluation after they hand in their final exam, and those who require a more detailed explanation will be called to or can visit the instructor as needed.

【使用テキスト】

Interchange Fifth Edition Level 1 Student Book A
Author: Jack C. Richards
Publisher: Cambridge University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCP101> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a basic introduction to conversational and travel English. The aim of the course is to build confidence in the students to use English. The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

【到達目標】

Students will have a much stronger understanding of grammar and a larger English vocabulary. They will feel confident when doing a number of things abroad, such as checking into hotels, eating at restaurants and communicating with English speakers in general.

【授業計画】

15 x 90 min classes.

Week 1: introduction to course and textbook. Home study

>>> Because of corona virus, classes will be held on google classroom (online) for week 1 and 2. you need a google account. Your access code is 2mpfvz

Week 2: introducing yourself and another person

week 3: hobbies and interests

Week 4: simple comparatives

Week 5: starting and ending conversations.

week 6: checking meaning and confirming plans

week 7: midterm exam

week 8: instructing someone one how to complete a simple task

week 9: giving directions

week 10: visiting a doctor and describing symptoms

week 11: adjectives for taste, smell and texture

week 12: basic conjunction practice (and, so, but -etc)

week 13: invitations

week 14: excuses and apologies

week 15: semester review

week 16: final exam

【授業時間外の学習】

students will do weekly homework between 30 mins - 60 mins. Sometimes students will have to complete reports.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

English Firsthand: Access
publisher: Pearson

ISBN: 978-9813130203

(Price: 2926 Yen)

【参考文献】

News articles at different levels, in English for self study. <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP102> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwards)

【授業の紹介】

Continuing from Practical English 1, students will develop their speaking and writing skills. We will begin using more complex grammar and introducing a lot more vocabulary. Students will practice in a variety of situations, such as group work, presentations, and report writing. After completing this course, students should feel confident communicating with English-speaking businesses through email, over the phone or in person. Students will also have a good base of business language if they are interested in working for an English-speaking company in the future.

【到達目標】

The goal of this course is to make the students confident English speakers. They should feel comfortable traveling, giving short speeches, and having simple conversations in English.

【授業計画】

15 x 90 minutes classes.

Week 1: past simple tense to describe recent activities

week 2: introduction to present continuous tense

week 4: introduction to present perfect continuous tense

week 5: Using continuous tense to describe recent national/global events

Week 6: review of recent grammar and exam preparation

week 7: midterm test

week 9: clothes shopping, sizes and styles

week 10: ordering from a menu for yourself and another person; asking about food

week 11: giving directions to a place

week 12: writing a complaint about poor service or a broken item

week 13: giving suggestions and discussing strategies

week 14: discussing and comparing the cultures of other countries

week 15: semester review

week 16 final test

【授業時間外の学習】

Weekly homework and reports. between 30 - 60 minutes of homework per week.

【成績の評価】

Homework, midterm tests and notes will be discussed during class hours with individual students.

in class effort (taking notes in class, participating in lessons and displaying a positive attitude towards study): 30%

midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

Feedback will be given during lesson-time, with help and advice given as needed.

【使用テキスト】

English Firsthand: access

Publisher: Pearson

Price: 2,926 Yen

ISBN: 978-9813130203

【参考文献】

a good self study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCF101> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません！」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語に参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

15回の授業を2つのプロジェクトに分けます。それをさらに3つのテーマに分けて、各テーマに対して2つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話を中心に（話す力）、そして、その会話について簡単な文書を読みます（読む力）。2つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし（書く力）、それを発表して、会話に戻します（一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました）。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。プロジェクトごとにまとめ（復習）の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との的確なコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

Google Classroom コード : suk5ho7 をお願いします！

- 第1回 (初級) 自分について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 自分について、書く(発表)
 - 第3回 (初級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第4回 (初級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第5回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第6回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第7回 (初級) テーマの復習
 - 第8回 (中級) 自分について、話す(読む)
 - 第9回 (中級) 自分について、書く(発表)
 - 第10回 (中級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第11回 (中級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第14回 (中級) テーマの復習
 - 第15回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF102> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定5級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。独学でフランス語検定5級を受けられる力を身につける。

【授業計画】

Google Classroom コード : suk5ho7 をお願いします！

- 第1回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 日常生活について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 日常生活について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 日常生活について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 日常生活について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 日常生活について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 最近あったことについて、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 最近あったことについて、書く(発表)
 - 第10回 (初級) これからあることについて、話す(読む)
 - 第11回 (初級) これからあることについて、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価	80%	総合合格点は60点以上です。
テーマの復習	20%	

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCC101> 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
2. 中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
3. 中国語基本文型の構造が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
 - 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
 - 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
 - 第4回 子音、鼻音
 - 第5回 ピンインの小テスト
 - 第6回 名前の言い方
 - 第7回 簡単な挨拶
 - 第8回 「是」の使い方
 - 第9回 形容詞述語文
 - 第10回 中間テスト（ピンイン・自己紹介・形容詞述語の習得程度を考査する）
 - 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
 - 第12回 動詞述語
 - 第13回 疑問文のタイプ
 - 第14回 数字の言い方
 - 第15回 お金の言い方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『ピンイン書き込み練習帳』

科目名： <UCC102> 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語 を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。
また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 簡単な会話ができる。
2. 簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」
 - 第2回 存在する動詞「有」
 - 第3回 時間の学習
 - 第4回 時間量を表す語
 - 第5回 過去形表現
 - 第6回 選択疑問文
 - 第7回 現在進行形
 - 第8回 中間テスト（第1回から第7回までの内容）
 - 第9回 「会」、「能」の使い方
 - 第10回 助動詞「可以」
 - 第11回 動詞の重ね型
 - 第12回 「是...的」の使い方
 - 第13回 過去の経験を表す表現
 - 第14回 連動型
 - 第15回 復習（単語と文型を応用して作文する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

作文（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
李佳坤自作初級練習教材

科目名： < TISE5 > 国語（書写を含む）

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。

卒業認定・学位授与方針の「主体的に生きる力」や「課題に気づいて解決する力」の育成に関わる以下のような内容としています。

○小学校や幼稚園などで国語教育にあたるための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。

○学生が自ら主体的に取り組むアクティブラーニングの手法を取り入れた授業活動の中で、宮沢賢治の各種作品や小学校・中学校の教科書に掲載されている様々な教材の詳細な読解を通じて「国語」の指導力を高めめます。

○授業活動を通じて、今後の社会で特に必要とされる文章や情報を正確に読み解き対話する力や科学的に思考・吟味する力を養います。

○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

【到達目標】

この授業の到達目標は、発達科学部の教育課程編成・実施の方針の「教育に関する研究能力を涵養」するとともに「主体的な学びの姿勢を形成」し、「論理的に判断し、それを適切な方法で表現する能力の獲得を図るため、以下のように設定しています。

1. 学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な「国語」を適切に表現し、正確に理解する力をつけることができます。

2. 学生が、「国語」を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力をつけることができます。

3. 学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、継続的に学び、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【授業計画】

第1回：学習指導要領と「国語」の意義について

第2回：宮沢賢治について・作品『やまなし』読解

第3回：作品『やまなし』読解

第4回：作品『やまなし』読解

第5回：様々な表現技術について（文学作品の分野）

第6回：様々な表現技術について（詩）

第7回：様々な表現技術について（短歌）

第8回：様々な表現技術について（修辞法）

第9回：様々な表現技術について（漢詩）（修辞法のいろいろ）

第10回：作品『注文の多い料理店』読解

第11回：作品『注文の多い料理店』読解

第12回：意見交換・表現について

第13回：作品『なめとこ山の熊』読解

第14回：作品『なめとこ山の熊』読解

第15回：これまでの読解・表現・書写についての整理

なお、書写については毎時間の冒頭に練習します。

定期試験

【授業時間外の学習】

○予習として、事前配布の資料を辞書や図書館の資料、WEBなどで調べ、内容を確認しておくこと。（2時間）

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。（2時間）

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況を評価します。

2. 授業に対する取り組み姿勢を評価します。

3. 1 + 2（30%）と期末考査の結果（70%）を合わせて総合的に評価します。

なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○自作資料集

○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（宮沢賢治著）

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <TISE6> 社会

担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校実情に即した社会科教育の在り方を追究します。

社会科は「社会認識による社会的知性を前提条件として究極的には公民的資質の育成を図る教科」です。小学校社会科では、「国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することが目標とされています。

本授業では、社会の変化と社会科の果たす役割や小学校社会科の内容構成や目標、内容、教材、評価などの基本的な考え方、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた社会科授業の在り方を追究していきます。

これらの学修をもとに、これからの社会で求められる力を社会科を通じていかに身に付けるかを考え、理論を踏まえて実践できる基礎的な資質・能力を培うことを目指します。

【到達目標】

社会の変化と学校教育における社会科の役割を考え、小学校教員として社会科学習をいかに指導するかを述べるができる。

- 1) 社会の変化と社会科教育の歴史を理解し、社会科の本質を述べるができる。
- 2) 社会科、地理歴史科、公民科の関連を理解し、小学校社会科の内容構成の特色を述べるができる。
- 3) 小学校社会科の目標、内容、評価の在り方などを理解し、指導計画作成上の留意点を述べるができる。
- 4) 社会科の学習過程や学習形態、学習活動の在り方を考え、授業計画作成上の留意点を述べるができる。
- 5) 総合的な学習の時間や特別の教科道徳等との関連を理解し、社会科の役割を述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・社会科の歴史<<各回の資料配布・課題提出>>Google classroom
 - 第2回 社会の変化と社会科教育
 - 第3回 社会科の本質・目標
 - 第4回 小学校社会科と中学校社会科、地理歴史科、公民科との関連
 - 第5回 小学校社会科と総合的な学習の時間、特別の教科道徳等との関連
 - 第6回 小学校社会科における地域学習・郷土学習
 - 第7回 小学校社会科における社会的事象の地理的な見方・考え方
 - 第8回 小学校社会科における歴史的学习
 - 第9回 小学校社会科における公民的学习
 - 第10回 小学校社会科指導計画の作成と配慮事項
 - 第11回 小学校社会科の学習過程と学習形態
 - 第12回 小学校社会科の評価
 - 第13回 小学校社会科における教材・教具の開発と活用
 - 第14回 小学校社会科における学習の個別・最適化とICT活用
 - 第15回 「社会に開かれた教育課程」における小学校社会科の在り方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 事前学修課題について、図書や資料等を参考に自分考えをノート等にまとめておくこと。(毎2時間)
- 2) 事後学修課題について、本時の学修内容を振り返り、期限内に提出すること。Google classroom(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー(40%)、期末試験(60%)とします。

リフレクションペーパーは、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

<<各回の資料配布・課題提出>>Google classroom

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 平成30年 文部科学省
小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

日本社会科教育学会編 新版 社会科教育事典 2012年 ぎょうせい
全国社会科教育学会 新 社会科授業づくりハンドブック 小学校編 2015年 明治図書
香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館
出版社

科目名： <TISE7> 算数

担当教員： 環 修(TAMAKI Osamu)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な算数・数学に関する事例を示しながら授業を行います。また、この授業は、算数・数学に関する問題に対し、あなたが考え、あなたが解決する時間です。身近な生活の中にある算数・数学のおもしろさや良さを実感し、数学的な見方・考え方を認識できるようにしていきます。算数・数学を学ぶ意義を考え、それを子どもたちに伝えていこうとする力を育てていきます。

【到達目標】

- ・身近な生活の中にある算数・数学を発見し、算数・数学を学ぶ意義を理解することができる。
- ・算数・数学のおもしろさや良さを理解し、数学的見方・考え方を身に付けることができる。
- ・楽しい算数指導のための教材開発の視点を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、これまでの算数・数学教育の振り返り
 - 第2回：九九表の秘密
 - 第3回：計算の工夫
 - 第4回：立方体の展開図
 - 第5回：面積の公式（台形、円）
 - 第6回：校舎の高さを測ろう
 - 第7回：サイコロの目
 - 第8回：円の中の三角形
 - 第9回：正多面体
 - 第10回：正四面体の体積
 - 第11回：不思議なタイル
 - 第12回：トイレトペーパーの回転数
 - 第13回：パラソルチョコレートを仲良く分けよう
 - 第14回：瀬戸大橋の秘密
 - 第15回：楽しい算数・数学授業の在り方
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・次回の授業内容を確認し、それに関連したことを調べ、ノート等にまとめておく。（2時間）
- ・毎回の授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（2時間）

【成績の評価】

- 受講態度（20%） 振り返りレポート（40%） 最終課題レポート（40%）
- ・毎回の授業振り返りレポートを提出し、コメントを記入して返却する。
 - ・最終課題は、算数・数学を学ぶ意義 身近な生活の中にある算数・数学の教材についてのレポートを作成し、15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）

【参考文献】

なし

科目名： <TISE10>理科

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員が小学校教諭として勤務をした経験を活かし、体験を重視して授業をします。

子どもたちの理科離れ、自然離れが指摘されています。本来子どもは好奇心が強く、自然のいろいろな事物・現象に興味津々です。子どもたちが不思議に思う気持ちを大切に受け止め、驚きや感動を共有して、一緒に調べ考えていこうとする教師の姿勢が大切です。

また、今日の社会が目ざす方向を示す標語として、「持続可能な社会」という言葉が使われます。先人が築きあげ、大切に受け継いできた文化や自然が急速に失われつつあることへの警鐘です。

これらを考え合わせ、授業では、小学校理科で学習する内容の中から生物・地学教材を中心に、観察、実験、栽培、飼育などの体験的な方法や技能を鍛えながら、自然認識の形成と自然環境の保全について考え、学んでいきます。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

【到達目標】

- (1)子どもの学びの場となる自然および自然の事物・現象についての基本的な知識を身につけることができる。
- (2)子どもに自然のすばらしさ、巧みさ、不思議さを気づかせる指導技術を養うことをめざす。
- (3)正しい自然認識を形成し「持続可能な社会」の実現に向けた指導について、考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校理科の目標と内容の取り扱い
- 第3回 春の自然観察・春日川と野鳥・学内の動植物
- 第4回 自然観察の方法（地学教材）
- 第5回 身近な大地のづくり
- 第6回 身近な大地のづくり
- 第7回 環境教育の考え方
- 第8回 環境教育の実践・ビオトープ
- 第9回 栽培・飼育の方法
- 第10回 天体観測の方法
- 第11回 夏の星空の観察
- 第12回 教材研究と授業計画
- 第13回 指導案作成
- 第14回 模擬授業
- 第15回 模擬授業
- 第16回 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・『小学校指導要領解説 理科編』と配付資料を読んで授業に臨むこと。（毎回1時間）
- ・授業の復習として内容をレポートを提出すること。（毎回2時間）
- ・指導案作成のための教材研究と予備実験及び模擬授業の準備（15時間）

【成績の評価】

レポート、模擬授業など授業の成果と筆記試験をそれぞれ50%で評価する。
小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校学習指導解説 理科編』（平成29年告示）
文部科学省『小学校理科の観察、実験の手引き』（必要に応じて文部科学省ホームページからダウンロード）

【参考文献】

日本自然保護協会 / 編集・監修『自然観察ハンドブック』（平凡社、1994年）2160円

科目名： <TISE9> 生活

担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。教育現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科教育の目標や内容、創設の背景、現状や課題などを把握し、その在り方を考える学習を通して、現在の学校教育についての認識を深めます。また、地域のフィールドワークやものづくり、討論、思考ツールの活用などの体験的な学習を通じて、生活科と他教科との関連、幼児教育との接続などに気付き、関心・意欲や技能など実践力を高めていくようにします。

【到達目標】

1. 生活科の目標や内容、創設の背景を理解するとともに、フィールドワークやものづくり、討論などを通して体験的に学び、教育実践のあり方について考えを深めることができる。
2. 学習指導要領や生活科にかかわる学習論の学びを通して、児童主体の教育方法の理解を深め、教育・保育について学ぶための資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、学校現場の生活科教育の現状
 - 第2回 生活科の目標・内容とその意味（グループワーク）
 - 第3回 生活科の課題と学習指導要領の改訂（ディスカッション）
 - 第4回 生活科の特色と教育的意義（ディスカッション）
 - 第5回 生活科の内容と体験活動「思考ツールの活用」（グループワーク）
 - 第6回 生活科の内容と体験活動「自然探索フィールドワーク」
 - 第7回 生活科の内容と体験活動「自然のものづくり」（制作）
 - 第8回 生活科の創設と時代的背景（グループワーク）
 - 第9回 生活科の教育理念（グループワーク）
 - 第10回 生活科の内容と体験活動「動くおもちゃ作り」（制作）
 - 第11回 生活科と他教科とのかかわり（グループワーク）
 - 第12回 生活科と見方・考え方、資質・能力（ディスカッション）
 - 第13回 生活科と総合的な学習（グループワーク）
 - 第14回 生活科と幼児教育との連携（グループワーク）
 - 第15回 まとめ、小学校教育における生活科の役割と期待
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- 日常での学内や春日川周辺の自然探索と記録（フィールドワーク）（1時間）
- フィールドワークやものづくりに必要な用具・材料の準備（2時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト2回(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、小テストについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書 「あたらしいせいかつ(上),新しい生活(下)」 東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： < ONGA6 > 音楽 -

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう以下の項目を中心に学ぶ。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
 - ・授業展開に必要な音楽理論。
 - ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
 - ・歌唱共通教材を中心に、ハ、二、ヘ、ト、変口長調の階名唱。
 - ・簡単な合奏と、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6拍子の指揮法。
- また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立する。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏）、楽譜の説明
 - 第2回：ピアノ奏法（1）、ハ長調、イ短調音階、ハ長調の階名唱、I度の三和音
 - 第3回：ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音
 - 第4回：ピアノ奏法（3）、ニ長調、ロ短調音階、ニ長調階名唱、IV度の三和音
 - 第5回：ピアノ奏法（4）、ヘ長調、二短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音
 - 第6回：ピアノ奏法（5）、変口長調、ト短調音階、変口長調の階名唱、和音の転回
 - 第7回：ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法
 - 第8回：ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法
 - 第9回：歌唱共通教材を使用した歌唱法
 - 第10回：歌唱共通教材のピアノ弾き歌い
 - 第11回：リコーダー奏法
 - 第12回：鍵盤ハーモニカ奏法
 - 第13回：さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び
 - 第14回：4分の2、あるいは4分の4拍子の合奏曲と指揮法
 - 第15回：4分の3および8分の6拍子の合奏曲と指揮法
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20%）、定期試験-実技（50%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： < ONGA7 > 音楽 -

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう、音楽I-IIに引き続き、以下の項目を中心に学ぶ。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
- ・授業展開に必要な音楽理論。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
- ・階名唱の反復練習、簡単な弾き歌い、および2部合唱。
- ・出来るだけ多くの楽器の体験。
- ・(既存の合奏譜に加える形で)打楽器パートのリズム譜の作成とその演奏。

また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立する。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期の復習
 - 第2回：ピアノ奏法(1)拍子の確認
 - 第3回：ピアノ奏法(2)音価の確認
 - 第4回：ピアノ奏法(3)I/IV/V/V7の和音の確認
 - 第5回：ピアノ奏法(4)和音の転回の確認
 - 第6回：ピアノ奏法(5)コード(C,F,G,G7)の確認
 - 第7回：弾き歌い(1)低学年の曲から
 - 第8回：弾き歌い(2)中学年の曲から
 - 第9回：合唱(1)さまざまな練習法、パート練習
 - 第10回：合唱(2)全体練習、留意点の確認
 - 第11回：合唱(3)発表、ふり返り
 - 第12回：合奏(1)リズム譜の作成
 - 第13回：合奏(2)さまざまな練習法、パート練習
 - 第14回：合奏(3)全体練習、留意点の確認
 - 第15回：合奏(4)発表、ふり返り
- 定期試験：筆記試験、実技試験(ピアノ弾き歌い)

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記(20%)、定期試験-実技(50%)、予習・復習と授業に取り組む姿勢(30%)
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月 文部科学省)

科目名： <TISE14> 図画工作 -

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、小学校教諭一級免許状取得のための必修科目です。また、担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）と、県教育委員会指導主事として9年間の学校現場への指導経験（図画工作科）を有しており、児童のつまずきへの対応など、学校現場の実態に応じた具体的な指導方法も示しながら授業を行うことができます。

この授業では、授業で学んだ経験を生かし小学校現場で指導することができるよう、小学校低学年から中学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い教材（作品づくり等）を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要な基礎的な知識や技能も身に付けることができると考えています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関わっています。

【到達目標】

- ・小学校図画工作科で、よく取り扱われている教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要な基礎的な知識や技能を身に付ける。
- ・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【授業計画】

第1回 小学校での造形活動や造形作品を鑑賞し、児童の造形表現の意義や目的について考える。

第2回 「自画像づくり」ホームルーム教室に掲示する自画像を、色画用紙を切って貼ってつくる。自画像を描くことに抵抗感があったり、絵を描くことが苦手であったりする子どもたちも一生懸命取り組むことができる。

第3回 「ちょきちょきかざり」（日文1・2上）、「ちょきんパツでかざろう」（開隆1・2上）から色紙を折って重ねて切って生まれる形の美しさ、面白さを体験し、飾って楽しむ。

第4回 「ごちそうパーティーはじめよう！」（日文1・2上）から 1回目
ケーキやお寿司、パンやパフェなど、食べ物を粘土でつくる。1回目は、紙粘土による形づくりをする。

第5回 「ごちそうパーティーはじめよう！」（日文1・2上）から 2回目 乾燥させた紙粘土に彩色

第6回 「ならべてならべて」（日文1・2上）、「いろいろならべて」（開隆1・2上）から
身の回りの同じ形の材料を並べて連続する形づくりを楽しむ。作品はデジカメで撮影する。

第7回 「うつしたかたちから」（日文1・2上）「スタンプ、スタンプ！」（開隆1・2上）から
身の回りのいろんなものをスタンプ（スタンピング）にしたり、上に載せて形をうつしとったり（フロッタージュ）して模様づくりを楽しむ。

第8回 「ふしぎなたまご」（日文1・2下）から 1回目
画用紙にいろんな模様の卵を描き、それを2つに切って（割って）、中から、生まれて飛び出してくるものを想像して描いて、それらを画面に貼って構成し、作品にする。

第9回 「ふしぎなたまご」（日文1・2下）から 2回目

第10回 「絵のぐ+水+ふで=いいかんじ！」（日文3・4上）、「絵の具と水のハーモニー」（開隆3・4上）

絵の具を混ぜたり、水の量を変えたりしていろんな色をつくり、いろんな線や形を描いてみる。

「カラフル色水」（日文1・2上）から

三原色の絵の具を混ぜているような色相の色をペットボトルにつくり、その性質ごとに隣同士に並べていき（グラデーション）、学内に展示する。

第11回 「つなぐんぐん」（日文3・4下）から 1回目

新聞紙を細く固く丸めて棒をつくり、それらをしっかりと繋いで線材による立体物をつくる。共同制作による巨大オブジェづくり。

第12回 「つなぐんぐん」（日文3・4下）から 2回目

第13回 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文3・4下）、「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆3・4下）から 1回目

ドリッピング、デカルコマニー、スパッタリング、ローラー・スポンジ・刷毛で描くなど、様々な技法を使って、またそれらの複数の技法を組み合わせるなどして偶然できる形や色の面白さ、美しさを体験する。

第14回 「絵の具を使ったいろんな表し方」（日文3・4下）、「絵の具を使ったいろんな表し方をくふうしよう」（開隆3・4下）から 2回目

1回目のできた作品を組み合わせた貼り絵による作品づくり（鳥、虫、魚など）を行う。

第15回 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

今回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要である。(1時間以上)

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げ提出すること。(相当する時間)

【成績の評価】

課題作品(技能、創意工夫)60%、授業態度(制作態度、発表、準備物など)40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書

「図画工作」(日本文教出版)、「図画工作」(開隆堂出版)

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)

科目名： <TISE15> 図画工作 -

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）と、県教育委員会指導主事として9年間の学校現場への指導経験（図画工作科）を有しており、児童のつまずきへの対応など、学校現場の実態に応じた具体的な指導方法も示しながら授業を行うことができます。

この授業では、授業で学んだ経験を生かし小学校現場で指導することができるよう、小学校中学年から高学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い教材（作品づくり等）を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要なとなる基礎的な知識や技能も身に付けることができると考えています。

なお、この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針「子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有すること」に関わっています。

【到達目標】

- ・小学校図画工作科で、よく取り扱われている教材について理解し、教材の制作を通して造形活動に必要なとなる基礎的な知識や技能を身に付ける。
- ・作品制作や鑑賞の活動を通して、造形表現活動を楽しむことができる。

【授業計画】

第1回 「創造性テスト」や「発想トレーニング」をとおして、創造性を高めるための造形教育の役割や意義について考える。

第2回 「これでえがくと」（開隆3・4下）から

いろいろな布（麻布、化繊など）や紙、ダンボール紙、毛糸や紐、綿など、手触りの異なるいろいろな素材を組み合わせて台紙に貼り付け、テクスチュア（画肌の感じ）の感じを楽しむとともに、絵の具で加筆するなどして作品を完成する。

第3回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 1回目
木版画の制作手順について知り、線描きの下絵をつくる。

第4回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 2回目
白黒のバランスを考えて彫りの計画を立て、彫刻刀で版木を彫っていく。

第5回 「木はん画のつくり方」（日文3・4下）、「木はん画に表そう」（開隆3・4下）から 3回目
版木にローラーでむらなくインクをつけて、すり紙をのせ、パレンで刷る。

第6回 「立ち上がれ！ワイヤーアート」（日文5・6上）、

「見つけて！ワイヤードリーム」（開隆5・6上）から 1回目

カラーワイヤーやアルミ、真鍮など、様々な素材の針金を曲げたりつなげたりして、つくり方を工夫して、抽象的なオブジェをつくる。1回目は、ミニチュア作品の制作と本制作の構想。

第7回 「立ち上がれ！ワイヤーアート」（日文5・6上）、

「見つけて！ワイヤードリーム」（開隆5・6上）から 2回目 完成させ、木の台に取り付ける。

第8回 「でこぼこの絵」（日文5・6上）から 1回目

板を思いのまま自由に切って、並べたり、重ねたりして、抽象半立体作品をつくる。教科書では糸鋸で板を切つてつくることが、本授業ではカッターナイフでスチレンボードを切ってボンドで貼り付けてつく。

第9回 「でこぼこの絵」（日文5・6上）から 2回目 完成させ、台紙に取り付ける。

第10回 「だんボールで、試して、つくって」（開隆5・6上）から 1回目

ダンボールを切ったり、曲げたり、剥がしたり、いろいろ試して、そこから思いついたものをつくる。抽象作品でも具象作品でもよい。

第11回 「だんボールで、試して、つくって」（開隆5・6上）から 2回目 完成させる

第12回 「墨と水から広がる世界」（日文5・6下）、「墨から生まれる世界」（開隆5・6下）から

ぼたっと落ちた墨、すうっとにじんだ墨、かすれた墨、それらを組み合わせたり、段ボールの切れはしで描いてみたりして多様な表現を楽しもう。

第13回から3回の授業では、日本や西洋美術史から名画を取り上げ、絵画鑑賞の基礎的な知識や見方を身に付ける。

第13回 鑑賞 「日本美術の特質をつかむ～水墨画、屏風絵、浮世絵の世界～」

第14回 鑑賞 「西洋古典絵画（宗教画など）の鑑賞～西洋文化の基礎理解～」

第15回 鑑賞 「抽象絵画の鑑賞～音楽に憧れた画家～」

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

次回の内容に沿って、あらかじめ準備物を用意したり、資料を収集したり、アイデアスケッチを描いてきたりすることが必要である。（1時間以上）

また、授業終了までに仕上がらなかった場合は、次週の同授業日までに授業時間外で制作し、仕上げ提出すること。（相当する時間）

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）60%、授業態度（制作態度、発表、準備物など）40%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

令和2年～5年使用 小学校図画工作科 教科用図書
「図画工作」（日本文教出版）、「図画工作」（開隆堂出版）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： <TISE20> 家庭

担当教員： 中村 真由美(NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業項目は、卒業認定・学位授与の方針の、個々の子どもに応じた望ましい成長・発達を支援するための専門的知識と技能および実践的能力の育成に関わっています。

家庭科は家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。指導する教員は生活者としての視点と生活実践力を持つことが必要とされる。

この授業では、小学校家庭科の学習内容に関する演習や実験・実習などの実践的・体験的な活動を中心として、小学校で家庭科の授業を行うために必要な家庭科の学習内容についての知識と基礎的な技能を習得し、生活実践力の獲得に繋げる。また、そのような活動を通じて生活者としての視点を養い、小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培う。

被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材，調理実習では白衣またはエプロン，三角巾、マスク、布巾などの準備が必要である。また，共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収する。

この授業を受講する学生は必ず第1回目の授業に参加すること。

なお、設備の都合で受講人数を制限することがある。

【到達目標】

生活者としての視点を持ち、生活実践力を身につけようと継続的に学ぼうとする態度を身につけることができる。

小学校の家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得することができる。

小学校の家庭科の学習内容を把握した上で教材研究ができる。

【授業計画】

この授業では、連絡事項の伝達や課題の提示等にGoogle Classroom を使用します。受講する学生は、以下の方法でクラスに参加してください。

インターネットに接続されたパソコン、タブレット、スマートフォンなどのICT機器を準備する。

インターネットブラウザを起動する。(Chrome推奨)

GoogleのWEBページを表示する。(https://www.google.co.jp/)

学生用Gmailアドレス(u @stg.takamatsu-u.ac.jp)でGoogleにログインする。

*高松大学のメールアドレス(@stg.takamatsu-u.ac.jp)以外のGmailアドレスでは、Classroomへの参加はできませんが、資料の閲覧や課題の提出等が正常にできません。必ず高松大学のメールアドレスでログインして、Google Classroomを経由して課題を提出するなどしてください。

Classroomを表示し、「+」マークをクリックして「クラスに参加」を選択し、クラスコードを入力します。

この授業のクラスコードは、【 x6fniyg 】です。

第1回 ガイダンス(授業のねらいと進め方について)

第2回 「A家族・家庭生活」自立について

第3回 「A家族・家庭生活」家族、生活時間について

第4回 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」エコ掃除について 指編みのエコたわしの製作

第5回 「B衣食住の生活」衣生活分野 被服製作の基礎知識

第6回 「B衣食住の生活」衣生活分野 手縫いの基礎とボタンつけ

第7回 「B衣食住の生活」衣生活分野 手縫い教材 あずま袋の製作

第8回 「B衣食住の生活」衣生活分野 手縫い教材 あずま袋の製作

第9回 「B衣食住の生活」衣生活分野 ミシン縫いの基礎

第10回 「B衣食住の生活」衣生活分野 ミシン縫い教材 エコバッグの製作

第11回 「B衣食住の生活」衣生活分野 ミシン縫い教材 エコバッグの製作

第12回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」型紙の作成、裁断・しるしつけ

第13回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第14回 「B衣食住の生活」衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第15回 「B衣食住の生活」食生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第16回 「B衣食住の生活」食生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第17回 「B衣食住の生活」食生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第18回 「B衣食住の生活」食生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」本縫い

第19回 「B衣食住の生活」食生活分野 毎日何を食べていますか?自分の食生活を把握しよう

第20回 「B衣食住の生活」食生活分野 献立を立ててみよう

第21回 「B衣食住の生活」食生活分野 調理の基礎

第22回 「B衣食住の生活」食生活分野 鍋でご飯を炊いてみよう

第23回 「B衣食住の生活」食生活分野 味噌汁について

第24回 「B衣食住の生活」食生活分野 味噌汁の調理と評価

第25回 「B衣食住の生活」食生活分野 茹でる料理について

第26回 「B衣食住の生活」住生活分野 茹でる料理の調理と評価

第27回 「B衣食住の生活」食生活分野 炒める料理について

第28回 「B衣食住の生活」食生活分野 炒める料理の調理と評価

第29回 教材研究のプレゼンテーション

第30回 これまでの講義の要点の確認と質疑応答

定期試験

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習には1回の授業につきそれぞれ30分以上の時間を費やすことが必要である。予習として、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をまとめておくこと(30分)。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに調べたことなどを記入しておくこと(30分)。

被服製作実習の授業に関しては、授業までに必要な道具や資材などを準備し、「被服製作実習計画表」に必要な事項を記入し、授業での作業内容を確認しておくこと(30分)。授業後は学習した技能の習得のため、繰り返し練習することを課す(30分)。練習で製作したものは授業での製作物とともに提出すること。なお、授業での製作物の製作は授業でのみ行うこととする。

調理実習の授業に関しては、授業までに食材を準備することに加え、必要な食材の分量、調理の手順、使用する道具、経費を「実習の記録」プリントに記入しておくこと(30分)。調理技能の習得のため、授業外でも調理し、画像とともに記録し(30分)提出すること。

家庭科の指導においては、まず教師自身が基礎的・基本的な知識と技能を習得し、生活面で自立していることが必要とされる。授業の予習、復習だけでなく、各自が日々の生活を科学的な視点から改めて見直し、気づいたことを追求し、技能的なことは繰り返し実践し、主体的に生活することを心がけることが必要である。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（10%）、提出物の提出状況や提出内容（40%）、教材研究のプレゼンテーション（10%）、定期試験（30%）。提出物は期限後は受け取らない。また、提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。15分以上の遅刻、または遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作及び調理実習については準備なしでの授業への参加は認めない。被服製作実習での制作物の提出及び調理実習の授業への参加は必須である。レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。定期試験の模範解答は教務課窓口で閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

「小学校学習指導要領解説 家庭編」、文部科学省、東洋館出版社、2017年
「わたしたちの家庭科5・6」、開隆堂、2020年
「楽しい家庭科ノート5・6年」、文教社、2020年

【参考文献】

関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： <KARA10 > 体育 -

担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

- ・子どもの育ちを支えるための教育的実践力を学ぶ。
- ・体ほぐし運動や基礎・基本的な運動学習を通して、他者とのコミュニケーション能力を育む。
- ・わかって、できる論理的な思考力や創造力を生かした実践的指導力を養う。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 体づくり運動（特に体ほぐし）の基礎・基本を習得する。
3. 様々な基礎・基本的な運動（歩・走・跳・投・打・蹴）を習得する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの発達特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの発達特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの発達特性（小学校高学年）
 - 第5回：体づくり運動（小学校低学年）
 - 第6回：体づくり運動（小学校中学年）
 - 第7回：体づくり運動（小学校高学年）
 - 第8回：基礎・基本的動作（立つ・歩く）
 - 第9回：基礎・基本的動作（走る）
 - 第10回：基礎・基本的動作（跳ぶ）
 - 第11回：基礎・基本的動作（打つ・蹴る・泳ぐ）
 - 第12回：子どもの運動実践と心理的意義
 - 第13回：子どもの運動実践と身体的意義
 - 第14回：子どもの運動実践と社会的意義
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40%）、小レポート（20%）、定期試験（40%）
出席率70%以上を原則として、評価点が全体の60%以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <KARA11> 体育 -

担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

- ・教師としての使命感、倫理観をもって児童と向かう。
- ・体の動きを高める運動を知識と実践を関連づけて学ばせる。
- ・自ら考えると共に仲間と意見交換しながら、課題解決していく協同性を養う。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を説明できる。
2. 体づくり運動（特に体の動きを高める運動）の基礎・基本を習得する。
3. 基礎・基本的な運動を活用した組み合わせ運動を習得する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校高学年）
 - 第5回：子どもの運動能力的特性（小学校低学年）
 - 第6回：子どもの運動能力的特性（小学校中学年）
 - 第7回：子どもの運動能力的特性（小学校高学年）
 - 第8回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校低学年）
 - 第9回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校中学年）
 - 第10回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校高学年）
 - 第11回：子どもの体力的特性を踏まえた運動指導法
 - 第12回：子どもの心理的特性を配慮した運動指導法
 - 第13回：子どもの社会性を踏まえた運動指導法
 - 第14回：運動会を楽しむ指導法
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40%）、小レポート（20%）、定期試験（40%）
出席率70%以上を原則として、評価点が全体の60%以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： < TISE8 > 小学校英語

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校英語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用方法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。

また、講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 新学習指導要領（外国語活動）を読み解く（構成の変更、授業改善、目標や内容の具体化等）
 - 第3回 新学習指導要領（外国語活動）を読み解く（領域ごとの目標、知識及び技能について等）
 - 第4回 小学校外国語活動の基礎と実践（外国語活動の目標）
 - 第5回 小学校外国語活動の基礎と実践（中学年の発達段階と外国語）
 - 第6回 授業の構成の考え方、教材の扱い方
 - 第7回 学級担任の役割
 - 第8回 ゲームの仕方（ゲームの内容や目的を学ぶ）
 - 第9回 ゲームの仕方（ゲームの実践）
 - 第10回 英語との出会わせ方、英語と日本語との違い
 - 第11回 文字の扱い方、2往復以上のやり取り
 - 第12回 動作の取り扱い方・語彙の取り入れ方、絵本の効果的な扱い方
 - 第13回 英語の歌
 - 第14回 絵本の読み聞かせ
 - 第15回 Show & Tell
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業中に配付する小学校外国語活動指導法に係る資料に目を通すとともに、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「レポート等、授業以外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「Show & Tellなどのプレゼンテーション」20%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。レポート、小テスト及びプレゼンテーションについては、その都度フィードバックを行います。

。なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

中学年用 はじめての小学校外国語活動 実践ガイドブック 新学習指導要領対応
(大城 賢、萬谷隆一編著、開隆堂、2017年)

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
(平成29年3月 文部科学省)

科目名： < KYOU1 > 国語指導法

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「国語指導法」は、小学校の国語教育の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。「国語指導法」の授業では、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの、「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに重きを置きます。この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎として、次の3点を到達目標とします。

学習指導要領における国語科の目標・主な内容・全体構造を理解できる。

PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。

具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）
 - 第2回：PISA調査と「読解力」（1）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題
 - 第3回：PISA調査と「読解力」（2）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策
 - 第4回：国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第7回：「話すこと・聞くこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第8回：「書くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第9回：「書くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第10回：「書くこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第11回：「読むこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第12回：「読むこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第13回：「読むこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第14回：国語科における「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用
 - 第15回：これからの読書指導（大村はま実践とアニメーション等）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる（毎月：A41枚1400字程度）
- ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します。読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

- ・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図ります。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご』（一上～六上）（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教師修行9 国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
- ・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
- ・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

科目名： < KYOU2 > 国語指導法

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている（卒業認定・学位授与の方針の一部）」の「実践」に関わる授業です。

国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成を検討します。

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

模擬授業等の活動を通し、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することとして、次の実践的指導力を身に付けることができる。

1. 目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれA4用紙1枚程度に表すことができる。
2. 発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
3. 必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【授業計画】

- 第1回：学習計画説明（「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担）
 - 第2回：教科書教材の「範読」（1）音読・朗読における「知識及び技能」 学生による「範読」活動
 - 第3回：教科書教材の「範読」（2）音読・朗読と「思考力・判断力・表現力」 学生による「範読」活動
 - 第4回：「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第7回：「音読指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第8回：「音読指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第9回：「音読指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第10回：「漢字指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第11回：「漢字指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第12回：「漢字指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第13回：教科書教材を用いた模擬授業（1）「知識及び技能」に関わる指導
 - 第14回：教科書教材を用いた模擬授業（2）「思考力・判断力・表現力」の指導
 - 第15回：教科書教材を用いた模擬授業の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
- 定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。

空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。

学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。

毎日、最低でも30分以上の時間を の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。

【成績の評価】

「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご（一上～六上）』（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教育新書1 授業の腕を上げる法則（向山洋一著、明治図書、1985年）
- ・教員採用試験 シリーズ「模擬授業・場面指導」（野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年）

科目名： < KYOU3 > 社会科指導法
担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、教科書や実践記録等の分析を通じて単元構想、指導計画、教材開発、授業の展開及び評価等に関する理解を深め、学習指導案を作成します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、児童の発達段階を踏まえその特色を述べるができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、個別・最適化を図る情報機器等の活用方法を述べるができる。
- 5) 地図や地球儀、資料等の特色を理解し、活用方法を述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（小学校社会科学習のイメージ）
 - 第2回 小学校社会科の目標と内容及び内容の取扱い：解説の構成と読み方
 - 第3回 教科書や副読本、資料、地図、地球儀の役割と活用
 - 第4回 情報機器及び映像資料等の特色と活用
 - 第5回 地域教材の開発と観察や見学・調査など体験的な学習の進め方
 - 第6回 単元構想と問題解決的な学習の進め方
 - 第7回 国土と産業に関する学習の進め方
 - 第8回 政治・国際、歴史に関する学習の進め方
 - 第9回 教科書及び実践記録等の分析（第3学年）
 - 第10回 教科書及び実践記録等の分析（第4学年）
 - 第11回 教科書及び実践記録等の分析（第5学年）
 - 第12回 教科書及び実践記録等の分析（第6学年）
 - 第13回 単元構想と学習指導案の作成方法
 - 第14回 単元構想と学習指導案の作成と相互評価
 - 第15回 「教材開発素材集」の発表と相互評価
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」を作成すること。(全30時間)
- 2) 学修中に課したワークシートの記述内容を振り返り、ノート等に整理しておくこと。(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー(20%)、「教材開発アイデア素材集(デジタルスクラップブック)」(40%)、期末試験(40%)とします。

リフレクションペーパーは、返却の際にコメントします。

教材スクラップブックは、第15回に各自が素材集を紹介し、相互評価します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省
小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

科目名： < KYOU4 > 社会科指導法
担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解に基づき、授業設計や学習指導、教材開発などの実践力を育成し、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。学習指導案、板書計画案及び配付資料等を作成し、模擬授業を通じ板書や発問、指導助言、学習形態などの在り方を検討します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、整理することができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、教材・教具の最適な活用方法を述べることができる。
- 5) 模擬授業を通じて、授業改善の在り方を述べることができる。

【授業計画】

<<各回の資料配布・課題提出>>Google classroom

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション(印象に残っている小学校社会科授業) |
| 第2回 | 各学年の目標、内容及び内容の取扱い |
| 第3回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第4回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第5回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第6回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第7回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第8回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第9回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第10回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第11回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の政治の働き |
| 第12回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第13回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第14回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 グローバル化する世界と日本の役割 |
| 第15回 | 社会科指導の在り方：まとめ |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に向け、教材研究を行い、学習指導案と資料等を作成すること。(計42時間)

担当模擬授業実施の際に指摘された事項を整理し、修正した学習指導案を提出すること。(計6時間)

模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理し、提出すること。(計12時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー(20%)、修正学習指導案(40%)、期末試験(40%)とします。

リフレクションペーパーは、課題返却の際に評価観点を解説します。

<<各回の資料配布・課題提出>>Google classroom

リフレクションペーパーについて、毎回コメントを返信します。Google classroom

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

科目名： < KYOU5 > 算数指導法
担当教員： 環 修(TAMAKI Osamu)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループでの指導案作成や検証により、子どものつまずきやその対応を考えたりすることで、子どもにとって分かりやすい指導のあり方を身に付けていきます。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・楽しい、分かる授業ができるようになるためのポイントを把握できる。
- ・魅力ある算数科の授業ができるための教材研究のあり方を理解することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、算数授業づくりの手順
 - 第2回：第1学年の内容（数と計算、図形）
 - 第3回：第1学年の内容（測量、データの活用）
 - 第4回：第2学年の内容（数と計算、図形）
 - 第5回：第2学年の内容（測量、データの活用）
 - 第6回：第3学年の内容（数と計算、図形）
 - 第7回：第3学年の内容（測量、データの活用）
 - 第8回：第4学年の内容（数と計算、図形）
 - 第9回：第4学年の内容（変化と関係、データの活用）
 - 第10回：第5学年の内容（数と計算、図形）
 - 第11回：第5学年の内容（変化と関係、データの活用）
 - 第12回：第6学年の内容（数と計算、図形）
 - 第13回：第6学年の内容（変化と関係、データの活用）
 - 第14回：楽しい、分かる授業をするためのポイント
 - 第15回：学習指導案作成のポイント
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・次回の学年の領域ごとの内容を、教科書や学習指導要領解説をもとにまとめておく。（2時間）
- ・毎回の授業の振り返りをまとめ、レポートとして提出する。（2時間）

【成績の評価】

- 受講態度（20%） 振り返りレポート（40%） 最終課題レポート（40%）
- ・毎回の授業振り返りレポートを提出し、コメントを記入して返却する。
- ・最終課題は、小学校算数授業における、各学年・各領域の学習内容のまとめ
1つの単元を決め、その指導のポイントについてのまとめ
についてのレポートを作成し、15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU6 > 算数指導法
担当教員： 環 修(TAMAKI Osamu)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。前期算数指導法で学習したことをもとに、グループで学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施し、全体で検討を行います。具体的な授業を通して、教材研究の在り方を学び、指導技術の向上を図っていきます。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・算数科の教材をもとに、学習指導案を作成することができる。
- ・学習指導案をもとに、授業の基本的な技能を生かし、授業を展開することができる。
- ・算数科の学習評価の考え方を理解し、それを授業に生かすことができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、授業をイメージした学習指導案の作り方
 - 第2回：模擬授業のための学習指導案づくり（数と計算）
 - 第3回：模擬授業と授業討議（数と計算）
 - 第4回：模擬授業のための学習指導案づくり（図形）
 - 第5回：模擬授業と授業討議（図形）
 - 第6回：模擬授業のための学習指導案づくり（測定）
 - 第7回：模擬授業と授業討議（測定）
 - 第8回：模擬授業のための学習指導案づくり（変化と関係）
 - 第9回：模擬授業と授業討議（変化と関係）
 - 第10回：模擬授業のための学習指導案づくり（データの活用）
 - 第11回：模擬授業と授業討議（データの活用）
 - 第12回：模擬授業のための学習指導案づくり（数学的活動）
 - 第13回：模擬授業と授業討議（数学的活動）
 - 第14回：算数指導法の授業の振り返り
 - 第15回：教育実習への心構え
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・指導案作りのための教材研究を、教科書や学習指導要領解説をもとに行う。（2時間）
- ・指導案、授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出する。（2時間）

【成績の評価】

受講態度（20%） 模擬授業（20%） 指導案・授業記録・討議記録（30%）

最終課題レポート（30%）

- ・指導案、授業記録、討議記録をまとめ、レポートとして提出し、コメントを記入して返却する。
- ・最終課題は、「楽しい算数の授業づくりについて」のレポートを作成し、15回目の最終授業時に提出する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さめきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU7 > 理科指導法

担当教員： 高木 由美子(TAKAGI Yumiko)

【授業の紹介】

小学校教諭1種免許状を取得することを目的に、小学校理科の授業を実施するための基本的な内容を身につけるとともに、授業に役立つ理科的な実習ならびに教材研究の実習とその報告を作成する。授業に役立つ理科的な実習を一通り行ったのち、理科教材としての実験・観察について、教員と学生が相談して扱う対象を決め、全学生が実演し、その原理と教育的意味を報告し、そのあと検討の議論を行う。理科的な実習の成果はレポートに、教材研究の実験は実験カードにまとめる。

【到達目標】

- ・理科の観察・実験・実習の方法を理解し、その方法にもとづいて観察・実験・実習を行うことができる。
- ・取り上げられた物理・化学・生物・地学の各トピックの基礎的な概念を身に着け、実習・実験の考察に使用できる。
- ・簡単な探究的な課題に取り組み、そのレポートを書くことができる。
- ・実験を行う上での安全への適切な配慮を示すことができる。
- ・理科室の管理・運営に関する基本的な理解をもって行動することができる。
- ・理科授業において効果的な実験教材を限られた期間内に準備して予備実験を済ませ、実際に演習しわかりやすく説明し、カードを作成することができる。

【授業計画】

1. 授業内容説明、授業前アンケート実施
2. 理科室の基本的な運営管理方法について
3. 化学分野（実験1：化学の概要、実験器具の基本操作）
4. 化学分野（実験2：物の燃え方と空気）
5. 化学分野（実験3：水溶液の性質とはたらき）
6. 物理分野（もののおもさとてんびん）
7. 生物分野（レポートの書き方・光学顕微鏡の操作方法、花粉の観察）
8. 地学分野（日なたと日かげの温度調べ）
9. 実施実験についての検討・予備実験
10. 理科教育分野演習実験
11. 物理分野演習実験
12. 化学分野演習実験
13. 生物分野演習実験
14. 地学分野演習実験
15. アンコール実験、まとめ

【授業時間外の学習】

理科教材実験は全員をグループに分け、2人または3人で授業時間外に行う予備実験によって、選んだ実験を追試・改良または開発し、授業時間内に実演する。演習が終わった実験については、授業時間外にその内容を実験カードにまとめ、翌週までに提出する。

【成績の評価】

出席点、課題レポート、理科カードなどを総合評価し単位を認定する。演習した実験の教育的意義、難易度、実施できた水準、原理の考察の度合い、演習におけるコミュニケーション力などを総合判断して評価する。無断欠席またはレポート未提出があれば単位を認定しないことがある。

【使用テキスト】

理科実験はテキストを配布する。教材実験は、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験などを参考とする。

【参考文献】

科目名： < KYOU8 > 理科指導法

担当教員： 高木 由美子(TAKAGI Yumiko)

【授業の紹介】

教育実習の前に身につけておくべきことの習得を目指して、理科の単元案及び授業案を作成し、模擬授業を行うまでの実践力を育む。

分野ごとにどの単元案をつくるか決める。学生がそれぞれの単元の実践例などで参考になるものを探し、それと教科書の流れを比較し、その違いについてまとめて報告する。単元案を作成して報告する。また、模擬授業を行うところを選び、その指導案を作成し、模擬授業を行って、その内容について議論し、より良い指導案に改善することによって授業を行うにあたって教師が考えるべきことについて学ぶ。

【到達目標】

・理科の単元案を、グループで相談しながら構想し、学習指導要領、教科書の内容の分析・検討を的確に行い、簡潔にまとめることができる。

・指導案及びその改善案を自身で作成する方法を学び、その学びを生かした模擬授業を行うことができる。

【授業計画】

1. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－塩の性質）
2. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－中和滴定）
3. 化学分野応用実験（マイクロスケール実験－大気汚染）
4. 単元案の作成法(教科書比較表および単元案のかき方)
5. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-物理
6. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-化学
7. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-生物
8. 比較表および単元案の発表表の提案・議論-地学
9. 各自が行う模擬授業の分野決定・指導案の作成
10. 模擬授業の実施およびその授業検討
11. 模擬授業の実施およびその授業検討
12. 模擬授業の実施およびその授業検討
13. 模擬授業の実施およびその授業検討
14. 模擬授業の実施およびその授業検討
15. まとめ

【授業時間外の学習】

・履修者の人数に合わせて6つのグループを作り、グループごとに「比較表」と「単元表」を各教科作成する。授業時間内には、提出されたものに基づいて検討し、議論を進める。

・議論されたことをふまえて、授業終了後に各グループで再び検討し、「比較表」と「単元表」を完成させ、期限までに提出する。

・模擬授業は一人一回担当し、指導案作成は事前に行い、模擬授業に取り組む。

・模擬授業を行う前に、予備実験や必要な教材の準備などを実施する。

【成績の評価】

作成した「比較表」「単元表」「指導案」の内容および発表・模擬授業における生徒との応答の実際、討議における発言内容を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

新編 新しい理科 3 - 6年 東京書籍

比較表、単元表の作成に使用した他の資料は該当部分を人数分コピーする。

【参考文献】

科目名： < KYOU9 > 生活科指導法

担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

生活科の学習指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容について理解を深め、栽培活動、おもちゃづくり、フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、生活科の指導法と教育理念を体験的に学びます。また、生活科授業の在り方について協議・模擬実践を通して、教員として授業を行っていく上での資質・能力向上を図ります。

なお、この授業科目は、後期「生活科指導法」と関連しています。

【到達目標】

1. 学習指導要領に示される生活科の目標や内容、指導上の留意点などについて、討論や実習を通して体験的に理解するとともに、児童主体の教育についての考えを深めることができる。

2. 生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して、知識体系と実際の教育活動を関連付け、教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 生活科指導法オリエンテーション、生活科教育の現状と課題
 - 第2回 生活科のねらいと内容（ディスカッション）
 - 第3回 教科書とその概要
 - 第4回 年間指導計画の作成と単元計画の基本（グループワーク）
 - 第5回 各学年の目標及び内容のポイントと解説（1）学校と生活
 - 第6回 内容（2）家庭と生活、（3）地域と生活
 - 第7回 内容（7）の実際（飼育・栽培活動の準備）
 - 第8回 内容（6）自然や物を使った遊び、（7）動植物の飼育・栽培
 - 第9回 内容（8）生活や出来事の交流、（9）自分の成長
 - 第10回 内容（5）の実際（フィールドワーク）
 - 第11回 内容（6）の実際（おもちゃ作り）
 - 第12回 内容（7）の実際（栽培活動の収穫と記録）
 - 第13回 学習指導の進め方と授業参観
 - 第14回 生活科と他教科・他領域との関連
 - 第15回 まとめと評価 生活科授業の在り方
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

栽培園の整備や野菜の栽培活動での水やり、草取り、収穫などの当番活動（2時間）

フィールドワークやものづくりに関する用具・材料の準備（1時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト2回(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。

授業ワークシート、小テストについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編（平成29年3月告示 文部科学省）

教科書「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： < KYOU10 > 生活科指導法

担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
生活科の学習において求められる児童主体の学習展開や体験的な学習過程について、単元の構想や学習指導案づくりを通して学びます。また、模擬授業の実施・協議を通して、教員として教育を担い、社会に貢献できるための資質・能力の向上を図ります。
なお、この授業科目は、「生活科指導法」の学修を基に実施します。

【到達目標】

1. 生活科の学習指導案づくり、模擬授業の実践を通して、授業づくりの基本を理解するとともに、児童主体の学習とするための学習展開や教材、指導技術の考えを深めることができる。
2. 生活科学習の在り方を考え実践する学修を通して、知識体系と実際の教育活動を関連付け、教員としての実践に向けた資質・能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 生活科の課題と学習指導要領改善の基本方針
- 第2回 学習指導案づくりに向けたグループ分け・計画づくり
- 第3回 単元構想案づくりとグループ検討会（グループワーク）
- 第4回 学習展開・体験的学習の基本（ディスカッション）
- 第5回 学習指導案づくり(1)、教材研究（教材・教具）
- 第6回 学習指導案づくり(2)、グループ別検討（グループワーク）
- 第7回 模擬授業に向けた教材の準備（グループワーク）
- 第8回 学習指導案の修正（グループワーク）
- 第9回 模擬授業及び研究討議(1)（授業実践）
- 第10回 模擬授業及び研究討議(2)（授業実践）
- 第11回 模擬授業及び研究協議(3)（授業実践）
- 第12回 模擬授業及び研究協議(4)（授業実践）
- 第13回 生活科と地域、幼児教育との連携（ディスカッション）
- 第14回 総合的な学習の時間との関連（グループワーク）
- 第15回 まとめ 生活科が小学校教育に果たす役割
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

学内の栽培園での冬野菜の栽培活動（当番制での水やり、草取り、肥料やり）（1時間）
模擬授業に向けた資料準備（2時間）

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)、小テスト2回(10%)、授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート、模擬授業評価については、その都度、授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年3月告示 文部科学省）
教科書「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： < KYOU13 > 音楽指導法
担当教員： 水嶋 育 (MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

- ・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で求められる専門的知識、技能と実践力を修得する。
 - ・将来教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。
 - ・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
 - ・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやリコーダー、指揮等の技能と共に必要な理論を修得する。
- また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第1から第3学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を堅実に演奏することができる。
3. 指導上の留意点を理解し、学習指導要領に忠実な指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断できる力、こことよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進度調査（自由曲の演奏）
 - 第2回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
 - 第3回：弾き歌いの指導（1）「うみ」ト長調と階名、拍子
 - 第4回：弾き歌いの指導（2）「日のまる」ヘ長調と階名、コードネームによる伴奏
 - 第5回：弾き歌いの指導（3）「春がきた」美しい発声法
 - 第6回：弾き歌いの指導（4）「虫のこえ」擬声語と打楽器による表現
 - 第7回：弾き歌いの指導（5）「うさぎ」日本古謡と陰音階
 - 第8回：弾き歌いの指導（6）「茶つみ」ヨナ抜き音階、手遊び、リズム打ち
 - 第9回：リコーダー奏法
 - 第10回：指揮法と器楽および声楽アンサンブル
 - 第11回：「音楽づくり」の意義と指導法
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について
 - 第15回：第2回模擬授業と振り返り、1～3学年の指導法についての総括
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上、次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成29年7月

科目名： < KYOU14 > 音楽指導法
担当教員： 水嶋 育 (MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

- ・子どもの育ちを支えるために必要な教育の一環として音楽科の授業、および音楽表現関連の特別活動を指導する上で必要な専門的知識、技能と実践力を修得する。
 - ・音楽指導法Ⅰで得た基礎能力にさらに磨きをかけ、また反復によって指導者としての資質を高める。
 - ・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
 - ・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやその他の楽器、指揮等の技能と共に必要な理論を習得する。
- また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
- ・将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。また邦楽と洋楽の比較、他教科や特別活動との関連付けを通して視野の拡大と内容の理解を深め、幅広く音楽に係わるシーンを知っていく。
 - ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第4から第6学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
3. 教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断する力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。
7. 学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、より豊かな指導へと結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
 - 第2回：弾き歌いの指導（1）「とんび」美しい発声法
 - 第3回：弾き歌いの指導（2）「もみじ」へ長調と階名、（2部合唱への試み）
 - 第4回：弾き歌いの指導（3）「子もり歌」日本古謡、五音音階、（リコーダーとの重奏）
 - 第5回：弾き歌いの指導（4）「冬げしき」二部合唱、3拍子と抑揚の体得
 - 第6回：弾き歌いの指導（5）「おぼろ月夜」弱起、歌詞の理解と情景の味わい
 - 第7回：弾き歌いの指導（6）「われは海の子」二長調と階名、明瞭な発音、滑舌や発声のまとめ
 - 第8回：打楽器の奏法と指導法
 - 第9回：指揮法と器楽・声楽アンサンブル
 - 第10回：日本の伝統音楽と外国の民族音楽 ICT機器の使用
 - 第11回：音楽科と他教科、特別活動との関連
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について
 - 第15回：第2回模擬授業と振り返り、第4～6学年の指導法についての総括
- 定期試験

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編-平成29年7月」

科目名： < KYOU15 > 図画工作指導法

担当教員： 速水 史朗(HAYAMI Shiro), 速水 規里(HAYAMI Misato)

【授業の紹介】

平面や立体（紙、粘土、木等の素材）の造形表現実習及び美術館の鑑賞などの活動を通して、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自身で体験する。「造形的な見方・考え方」を働かせるにはどうしてゆくかを、その体験から考察し図画工作の学習指導法に活かしてゆく。

その活動から、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけ、教育（図画工作指導）の知識・能力や態度・指向性を修得する。

Google Classroom：クラスコード【opetmk7】

【到達目標】

・「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす」授業を行えるために、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験ができる。

・体験した中での問題点や課題に気づいて解決する力を身につけることをめざす。

・それをいろいろな場面にあてはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることをめざす。

（図画工作指導法研究における教育目的、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作指導法研究の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることをめざす。）

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、講師自己紹介、学生自己紹介(1)授業の方針と進め方の説明、次回授業の説明、学生の目的、要望の聞き取り

第2回：色彩構成(平面)(2)色紙による色彩構成、構図を考える

第3回：色彩構成(平面)(3)配色を考えながら構成制作

第4回：色彩構成、立体構成(4)色彩構成の完成、立体構成を考える

第5回：紙による立体構成(5)画用紙での立体造形 構成を考える

第6回：紙による立体構成(6)組み立て及び配色

第7回：絵を描く(人物・彩色)(7)友人を描く デッサン

第8回：絵を描く(人物・彩色)(8)彩色

第9回：コラージュ制作(9)印刷物を切り取りイメージの再構築(導入部分に模擬授業を行う)

第10回：コラージュ制作(10)再構築したイメージの貼り込み

第11回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(11)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第12回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(12)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第13回：提出課題の講評、粘土による造形(13)粘土の扱い方 立体の捉え方

第14回：粘土による造形(14)細かい部分の仕上げ(乾燥後焼成して返却)

第15回：学習指導案作成(15)粘土を使った授業の指導案作成

第16回：学習指導案作成(16)粘土を使った授業の指導案作成

第17回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(17)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第18回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(18)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞、課外授業の考察

第19回：提出課題の講評、絵手紙(19)出す相手を決めて構図を考える

第20回：絵手紙(20)絵手紙作成

第21回：木のレリーフ制作(21)デザインを考える

第22回：木のレリーフ制作(22)木に図柄をうつし、掘り始める

第23回：木のレリーフ制作(23)木を彫る

第24回：木のレリーフ制作(24)木を彫る

第25回：木のレリーフ制作(25)彫り上げた作品に色を付ける

第26回：木のレリーフ制作(26)作品の色付けおよび仕上げ、展示、講評

第27回：抽象表現(27)花、動物など具体的な事象をどのように表すかの考察

第28回：抽象表現(28)絵の具色紙などを使って制作

第29回：前回の指導案の講評、学習指導案作成(29)前回の指導案の注意点を踏まえて、指導案作成

第30回：学習指導案作成及び講評(30)指導案作成及び発表

定期試験は実施しない。

美術の鑑賞は2時間となるため、原則として土曜日の3・4時限にて行う(補講)

美術館のスケジュールにより、上記日程は変更になることがあります。

【授業時間外の学習】

課題は原則授業の最後に提出。いろいろな課題をどの様に授業に活かしてゆくかを考え、疑問点問題点などを話し合いながら制作。次回の授業に必要な資料、アイデアスケッチなどを準備しておく。（15時間程度）

提出出来ない場合は、次回授業で提出になるので、各自持ち帰って完成すること。（12時間程度）

美術の鑑賞では、次回授業時に「鑑賞、学芸員の説明に対する感想、授業としてどう活かすか」などのレポート提出。（3時間程度）

授業に出席できない場合（実習、個人の理由ともに）課題もしくはレポートを提出。（3時間程度）

【成績の評価】

受講態度、課題提出状況、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。

各課題・レポート（70%）、学習指導案（30%）

各課題については数回に分けて授業の冒頭もしくは授業中に個別に講評を行います。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）

【参考文献】

なし

科目名： < KYOU11 > 家庭科指導法

担当教員： 中村 真由美 (NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の教育に関する知識、技法を習得するものである。

家庭科は、家庭生活を中心とした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。この授業では、家庭科の教科としての歴史の変遷や独自性を理解し、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを踏まえた上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行う。また、家庭科の授業において必要不可欠な調理及び被服製作実習の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能を、実習を交えて修得する。授業を通して、家庭科の指導に必要な資質である生活者としての視点と生活実践力を身につけようと継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身につけるようにする。実習の授業の際には裁縫道具や布地などの資材、食材や白衣またはエプロン、三角巾、マスク、布巾などの準備が必要である。また、この授業を受講する学生は、必ず第1回目を受講すること。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領における家庭科の目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 家庭科教育における体験的・実践的学習の意義が理解できる。
3. 児童の意欲や認識、生活等の実態を視野に入れた授業計画を構想することができる。
4. 具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。
5. 児童の実践的・体験的な学習を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を修得することができる。

【授業計画】

この授業では、連絡事項の伝達や課題の提示等にGoogle Classroomを使用します。受講する学生は、以下の方法でクラスに参加してください。

インターネットに接続されたパソコン、タブレット、スマートフォンなどのICT機器を準備する。

インターネットブラウザを起動する。(Chrome推奨)

GoogleのWEBページを表示する。(<https://www.google.co.jp/>)

高松大学の学生用メールアドレス (u @stg.takamatsu-u.ac.jp) でログインする。

* 高松大学の学生用メールアドレス以外のGmailアドレスでは、Classroomへの参加はできませんが、資料の閲覧や課題の提出等が正常にできません。必ず高松大学の学生用メールアドレスでログインし、Google Classroomを経由して課題等を提出するなどの操作をしてください。

この授業のクラスコードは、【 i73ke2t 】です。

第1回：ガイダンス(授業のねらいと進め方について)

第2回：小学校家庭科教育の変遷

第3回：家庭科教育の意義とねらい及び内容

第4回：家庭科の授業づくり(学習指導と評価、年間指導計画・ICT機器の活用方法)

第5回：A「家族・家庭生活」の学習内容及び教材研究

第6回：B「衣食住の生活」衣生活分野及び住生活分野の学習内容及び教材研究

第7回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」手縫いの基礎

第8回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」ミシン縫いの基礎とティッシュケースの製作

第9回：B「衣食住の生活」食生活分野、「C 消費生活・環境」学習内容及び教材研究

第10回：ご飯と味噌汁の調理

第11回：ご飯と味噌汁の試食と評価

第12回：模擬授業の計画(教材研究・指導案作成)

第13回：第1グループの模擬授業および授業観察

第14回：第2グループの模擬授業及び授業観察

第15回：小学校現場における家庭科の学習指導の要点

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習にはそれぞれ2時間以上の時間を費やすことが必要である。予習としては、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をノートにまとめておくこと(2時間)。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと(2時間)。実習の授業については、予習として実習に必要な準備物は授業までに準備し、計画表を完成しておき、実習内容に必要な知識や技能について調べ、実習における自分の課題を確認しておくこと(2時間)。また、実習後は授業で学んだ技能を各自の生活で実践し、確実に修得するよう努力し、実施状況を記録しておくこと(2時間)。家庭科は家庭生活を中心とした生活に関わる内容を取り扱う教科であるため、各自が自立した生活主体者として暮らし、常に科学的な視点で日々の生活において問題を見出し、気づいたことはノートに書き留めておき、常に解決する努力をし続けること。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、模擬授業への取り組み方等（30%）。

なお、提出物は提出期限後は受け取らない。また提出物の未提出、本人からの事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。30分以上の遅刻、または遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作実習および調理実習については準備なしでの授業への出席は認めない。被服製作実習での製作物の提出及び調理実習の授業への参加は必須である。

レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。

【使用テキスト】

テキスト

「小学校学習指導要領解説 家庭編」,文部科学省,東洋館出版社,2017年

「新しい家庭5・6」,東京書籍,2020年

「新しい家庭5・6 家庭科ノート上」,東京書籍,2020年

【参考文献】

「初等家庭科の研究—指導力につなげる専門性の育成」,大竹美登利 倉持清美著,萌文書林,2018年

「小学校家庭科教育法」大竹美登利編纂,建帛社,2018年

その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： < KYOU112 > 体育指導法
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

クラスコード【ozf2vzb】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：スポーツ・運動の価値
 - 第3回：体育の目的
 - 第4回：体育の目標の変遷
 - 第5回：体育の学習指導要領
 - 第6回：良い体育授業の条件
 - 第7回：体育における指導・学習スタイル
 - 第8回：体育における教材と教具
 - 第9回：体育の学習評価
 - 第10回：体育授業の観察・評価の方法
 - 第11回：学習指導案づくり
 - 第12回：体育の模擬授業（体づくり：体ほぐしの運動）
 - 第13回：体育の模擬授業（体づくり：体の動きを高める運動）
 - 第14回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 接点技群）
 - 第15回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 翻転技群）
 - 第16回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 切り返し系）
 - 第17回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 回転系）
 - 第18回：体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）
 - 第19回：体育の模擬授業（陸上運動：リレー）
 - 第20回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 宝取り鬼）
 - 第21回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 コロコロボール）
 - 第22回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 ハンドボール）
 - 第23回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 キャッチバレーボール）
 - 第24回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 ソフトバレーボール）
 - 第25回：体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型 キックベースボール）
 - 第26回：体育の模擬授業（表現運動：表現）
 - 第27回：体育の模擬授業（表現運動：フォークダンス）
 - 第28回：体育の模擬授業（保健：心の発達）
 - 第29回：体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）
 - 第30回：授業のまとめと今後の課題の提示
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行い責任を果たしてください。文部科学省HPにある小学生を対象とした指導モデルを参考に、毎週の担当者の授業と比較しながら振り返ることにより、2時間程度の復習をして下さい。

【成績の評価】

中間テスト（30%）、模擬授業の発表内容（30%）、模擬授業実施後のレポート（40%）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので、それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： < KYOU112 > 体育指導法
担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

クラスコード【ozf2vzb】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：スポーツ・運動の価値
 - 第3回：体育の目的
 - 第4回：体育の目標の変遷
 - 第5回：体育の学習指導要領
 - 第6回：良い体育授業の条件
 - 第7回：体育における指導・学習スタイル
 - 第8回：体育における教材と教具
 - 第9回：体育の学習評価
 - 第10回：体育授業の観察・評価の方法
 - 第11回：学習指導案づくり
 - 第12回：体育の模擬授業（体づくり：体ほぐしの運動）
 - 第13回：体育の模擬授業（体づくり：体の動きを高める運動）
 - 第14回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 接点技群）
 - 第15回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 翻転技群）
 - 第16回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 切り返し系）
 - 第17回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 回転系）
 - 第18回：体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）
 - 第19回：体育の模擬授業（陸上運動：リレー）
 - 第20回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 宝取り鬼）
 - 第21回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 コロコロボール）
 - 第22回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 ハンドボール）
 - 第23回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 キャッチバレーボール）
 - 第24回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 ソフトバレーボール）
 - 第25回：体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型 キックベースボール）
 - 第26回：体育の模擬授業（表現運動：表現）
 - 第27回：体育の模擬授業（表現運動：フォークダンス）
 - 第28回：体育の模擬授業（保健：心の発達）
 - 第29回：体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）
 - 第30回：授業のまとめと今後の課題の提示
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行い責任を果たしてください。文部科学省HPにある小学生を対象とした指導モデルを参考に、毎週の担当者の授業と比較しながら振り返ることにより、2時間程度の復習をして下さい。

【成績の評価】

中間テスト（30%）、模擬授業の発表内容（30%）、模擬授業実施後のレポート（40%）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので、それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： < KYOU16 > 外国語活動（英語）指導法研究

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生が自ら体験しながら学ぶ。

また、実際の授業づくりにも取り組む。講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、新学習指導要領を読み解く
 - 第2回 これからの授業の展望
 - 第3回 効果的な教科横断の仕方
 - 第4回 絵本を通して豊かな英語のやりとりを
 - 第5回 文字の教え方
 - 第6回 デジタル教材の活用法
 - 第7回 わが町紹介/日本紹介の教え方
 - 第8回 異文化理解を「教える」とは
 - 第9回 児童生徒に効く小中連携を
 - 第10回 「道案内」はプログラミング教育の"はじめの一步"
 - 第11回 模擬授業の実践及び授業研究（指導案の書き方）
 - 第12回 模擬授業の実践及び授業研究（実践1）
 - 第13回 模擬授業の実践及び授業研究（実践2）
 - 第14回 模擬授業の実践及び授業研究（実践3）
 - 第15回 模擬授業の実践及び授業研究（フィードバック）
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、授業中に配付する小学校外国語活動指導法に係る資料に目を通すとともに、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」20%、「レポート等、授業以外に課す課題」20%、「小テスト」20%、「プレゼンテーション及び模擬授業」40%の4項目を総合的に評価します。レポート、小テスト、プレゼンテーション及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。
なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

小学校英語早わかり 実践ガイドブック 新学習指導要領対応
(大城 賢、萬谷隆一編著、開隆堂、2017年)

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
(平成29年3月 文部科学省)

科目名： <KIS02> 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられる。

今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にある。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得する。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成する。

なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれないが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色がある。そこで、0歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討する。

【到達目標】

1. 教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得することができる。
2. 教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
3. 教育の歴史や思想の学習をおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
4. 自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
5. 上の4つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・教育の意味と本質
 - 第2回：教育の目的と目標
 - 第3回：人間社会における教育の役割
 - 第4回：家族や社会における教育の思想と教育の役割
 - 第5回：主要な教育思想
 - 第6回：近代学校制度の成立と展開
 - 第7回：日本の学校教育の歴史
 - 第8回：義務教育の概要
 - 第9回：今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度
 - 第10回：教育課程の基礎
 - 第11回：学習指導の基礎
 - 第12回：家庭教育
 - 第13回：生涯学習
 - 第14回：教員養成
 - 第15回：今日の教育課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教育学原論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求める。その1つとして、授業終了時に、当該授業において授業後に復習すべきことを指示する。また、次回の授業に関する予習事項を指示する。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート（約30%）、レポート（約20%）、定期試験（約50%）の3つを以て、総合的に評価する。

- ・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントする。
- ・主たるレポート課題については、15回目の授業でフィードバックする。
- ・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックする。

【使用テキスト】

新初等教育原理（平成26年 佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介する。

科目名： <KIS04> 教師論

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教育は教師次第と言われます。それほど教師の役割が重要であることを示しています。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすればいいというように、教えるのは誰にでもできるよに思われています。そうでしょうか。

教師・保育者には、まず人間性（例えば豊かな心、コミュニケーション力、責任感など）が重要です。その上に専門性（例えば教育・保育の体系的知識や理論、教育や保育の実践力など）が特に求められます。さらに職業人としての教職・保育職の仕組み（職務、研修、サービス、チーム学校など）を理解していなければなりません。

本授業ではそれらをわかりやすく、かつ体系的に学びます。それらは本学部のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーにも含まれています。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育・保育問題、を思い起こしながら受講してください。また、講義形式を主としますが、グループ・ワーク（ディスカッション、まとめ、発表など）や小課題も取り入れますので、積極的に授業に参加してください。

。なお、ここで「教師」「先生」「教職」とは、幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めています。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下のことができるようになることです。

1. 受講生が教師・保育者、教職・保育職を具体的に理解し、それぞれの教師・保育者像を明確にでき、教職・保育職に対する情熱や使命感・倫理観を高める。
2. 具体的には、教師・保育者の人間性、専門性、職業人としての教師・保育者について理解でき、具体例をあげて、考えることや説明ができる。
3. そして教師・保育者をめぐる諸問題について疑問を持ち、教職・保育職についての知識や理解を深めることができ、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	(1) 教師・保育者の人間性	1) 歴史の中の教師・保育者
第3回	教師・保育者の人間性	2) 現代の教師・保育者像
第4回	教師・保育者の人間性	3) 人間として成長する教師・保育者
第5回	教師・保育者の人間性についてのグループ・ワーク	
第6回	(2) 教師・保育者の専門性	1) 求められる専門性の変遷
第7回	教師・保育者の専門性	2) 現代に求められる専門性
第8回	教師・保育者の専門性	3) 校風の違いによる専門性
第9回	教師・保育者の専門性についてのグループ・ワーク	
第10回	(3) 職業人としての教師・保育者	1) 職務、身分
第11回	職業人としての教師・保育者	2) サービス規律
第12回	職業人としての教師・保育者	3) 勤務条件
第13回	職業人としての教師・保育者	4) 研修
第14回	職業人としての教師・保育者についてのグループ・ワーク	
第15回	(4) 教師・保育者の仕事 - 学習・あそびの指導、生活の指導、学級（保育室）経営、学校（園）経営、チーム学校への対応など -	

定期試験を実施する。

【授業時間外の学習】

授業後にノートや資料を復習し、疑問点や気付いた点などを赤で記入しておくこと（毎回1時間）。

人間性、専門性、職業人に関してグループワークを合計3回行うので、それに備えて各自で振り返りを行う（毎授業後1時間）とともに、グループによるディスカッション、調査、まとめ、発表などの準備を、時間外に行う必要がある（合計約30時間）。

【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況と試験を総合して評価します。比率は前者を20%、後者を80%と一応しておきますが、出来具合を見て調整することがあります。

試験についてのフィードバックは、試験終了後に解答例を配付します。

【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付します。

【参考文献】

- ・壺井 栄著 『二十四の瞳』（新潮文庫、昭和32年、角川文庫、昭和36年など）
 - ・佐竹勝利他編 『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）
 - ・秋山弥監修 『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）
 - ・佐々木司・三山緑編著 『これからの学校教育と教師 - 「失敗」から学ぶ教師論入門 - 』（ミネルヴァ書房、2014年）
 - ・榎沢良彦他編 『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）
 - ・古橋和夫編著 『新訂 教職入門』（萌文書林、2018年）
- その他

科目名： <KIS03> 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することからは難しいのでできれば避けて通りたい・・・と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。

・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション&教育制度を学ぶ意義

第2回：教育法規の全体像

第3回：学校制度とその課題

第4回：教育行政制度とその課題

第5回：教育財政制度とその課題

第6回：教育課程行政

第7回：学校経営の理論と実際

第8回：学校経営における地域や保護者との連携

第9回：幼児・児童の管理

第10回：学校における安全管理

第11回：教員養成制度

第12回：特別支援教育制度

第13回：学校を巡る社会状況の変化と学校の課題

第14回：生涯学習社会に向けた教育制度の在り方

第15回：我が国及び諸外国における教育事情と教育改革

定期試験

【授業時間外の学習】

教育制度論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つとして、各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KOK02> 教育心理学
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業科目では、卒業認定・学位授与の方針の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていることに関わっています。教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わるに際し必要となる理論を紹介し、受講した学生が理論と教育実践と結びつけられることをめざします。

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：記憶（1）記憶のメカニズム
 - 第3回：記憶（2）効率的に覚えてられる指導
 - 第4回：学習（1）古典的条件づけと道具的条件づけによる学習のメカニズム
 - 第5回：学習の動機づけ（1）達成動機づけを高く保つ要因
 - 第6回：学習の動機づけ（2）学習の理由や目的が動機づけに及ぼす影響
 - 第7回：発達 遺伝と環境が発達に及ぼす影響
 - 第8回：知的能力の発達 IQとは何か
 - 第9回：人格の発達 発達段階における課題と性格特性
 - 第10回：発達障害の理解と支援
 - 第11回：学習指導の形態と効果
 - 第12回：教育評価の方法と効果
 - 第13回：学級における社会的構造
 - 第14回：学級の荒れと学級の特徴
 - 第15回：教育心理学を学ぶ意義
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの指定範囲を読み理解しておくこと、およびICTを利用した予習の確認問題を課す（2時間）。復習として、授業内容のまとめや授業で扱った理論を応用した実践を考えること、考えた実践についてディカッションすることを課す（2時間）。

【成績の評価】

各回の授業の最後に行う課題（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、定期試験（60%）の総合判断により行う。
授業内に実施する課題は次回授業時に解答のポイントを示すとともに受講学生の回答を全体で共有することによりフィードバックを行う。
定期試験の結果は採点基準と解答のポイントを研究室のドアに掲示し希望者にはオフィスアワーの際に個別対応して解説する。

【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2019）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

【参考文献】

- 大久保智生・牧郁子（2019）「教師として考えつづけるための教育心理学 多角的な視点から学校の現実を考える」（ナカニシヤ出版）
- 森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
- 石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
- 藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： < TOKU26 > 特別支援教育
担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

【授業の紹介】

特別の支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の理解を進めるための基本を講義し、学校等において支援するための教育内容・方法についての基本を学ぶ。そのために、特別な支援を必要とする児童・生徒の心理特性・発達特性を踏まえて、学級経営・授業づくり等の場面での指導方法とその背景にある教育課程の概要を講義する。具体的な実践事例も取り上げて、教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の国際的な背景や動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や個別の指導計画・教育支援計画の必要性・関係機関との連携等、特別支援教育に関する現代の課題にも触れる。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の生活・発達・学習における困難さ・個別のニーズを把握するための基本を理解することができる。
2. 特別な支援を必要とする児童・生徒が授業や学級活動に参加するために教師や学校組織等に必要な知識・支援方法・関係機関との連携のあり方の基本を理解することができる。
3. 特別な支援を必要とする児童・生徒とともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回:特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス
 - 第2回:インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念・制度について
 - 第3回:発達障害、知的障害のある児童・生徒の発達特性について
 - 第4回:発達障害、知的障害のある児童・生徒の心理特性について
 - 第5回:特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒の学習・発達における困難さについて
 - 第6回:特別な支援を必要とする幼児の支援方法について
 - 第7回:特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法について
 - 第8回:教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけについて
 - 第9回:「通級による指導」の内容について
 - 第10回:「自立活動」の内容について
 - 第11回:個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程について
 - 第12回:個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法について
 - 第13回:関係機関と連携して特別支援教育の体制を構築する意義について
 - 第14回:母国語や貧困等の問題により特別なニーズのある児童・生徒の困難さと組織的対応について
 - 第15回:インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向について
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各授業で示す課題を授業時間外において学習して、次の授業時に提出するなどの復習・予習が必要である(2時間)。授業で紹介した特別支援教育についての文献・実践記録等を検索して収集し、学習した結果を指定期日までに提出することが必要である(2時間)。

【成績の評価】

定期試験(80%)、いくつかの授業の区切りの最後に提出するレポート(20%)
提出されたレポートは、添削等のコメントをつけて返却する。また、定期試験においては採点基準を示して説明する。

【使用テキスト】

『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】

授業中適宜資料を配付する。

科目名： <KIS06> 教育課程論

担当教員： 山岸 知幸

【授業の紹介】

この授業科目は、卒業認定・学位授与の方針の「必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」すること、また自身の「資質向上に向けて継続的に学ぶ能力」を身に付けることに関わっています。

教育課程・カリキュラムに関する歴史、意義や編成原理、現在の学習指導要領の重要なポイントについて学んでいきます。教育課程についての具体的な事例にも基づいて考察していきます。

【到達目標】

1. 教育課程・カリキュラムに関わる歴史や理論を理解することができる。
2. 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を体系的に理解することができる。
3. 各学校の実情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：我が国の戦後の教育課程の変遷
 - 第3回：カリキュラム改革の歴史（1） - 児童中心主義思想を中心に -
 - 第4回：カリキュラム改革の歴史（2） - 教育内容の現代化を中心に -
 - 第5回：教育課程の編成原理と類型
 - 第6回：教育課程の編成・実施・評価・改善
 - 第7回：小学校学習指導要領を学ぶ（1） - 総則を中心に -
 - 第8回：小学校学習指導要領を学ぶ（2） - カリキュラム・マネジメントの視点から -
 - 第9回：小学校学習指導要領を学ぶ（3） - 幼小連携と小中連携の視点から -
 - 第10回：教育課程の実際（1） - 年間行事計画 -
 - 第11回：教育課程の実際（2） - 時間割の作成 -
 - 第12回：教育課程の実際（3） - 日課・週時程の編成 -
 - 第13回：教育課程の実際（4） - 教科年間指導計画 -
 - 第14回：教育課程の実際（5） - 特色ある学校づくりと学校評価 -
 - 第15回：まとめ - これからの教育課程・カリキュラムの課題 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に指示された資料及びテキストを精読し、学んだこと・疑問点をノートにまとめておくこと（2時間）。

レポート作成に向けて、毎回の授業内容のポイントをA5一枚程度にまとめておくこと（2時間）。

【成績の評価】

レポート試験（60%）、毎回の授業後に提出する小レポート（40%）

レポートについては、採点基準を説明する。

毎回の授業後に提出する小レポートについては、次の授業時間にコメントを添えて返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

【参考文献】

授業中に適宜資料を配付する。

科目名： <K0K08> 道徳教育論

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。授業の内容は、大まかに理論編と実践編に分ける。理論編では、現代社会と道徳問題について概説し、道徳及び道徳教育の本質について講義する。実践編では、学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や実践的方法について具体例や模擬授業を通して考えていく。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：[]理論編：現代社会と道徳問題（学習指導要領の改訂の経緯を含む）

第3回：道徳の本質（道徳教育の意義と役割を含む）

第4回：道徳性の発達

第5回：道徳教育の歴史

第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容

第7回：[]実践編：学校における道徳教育の指導計画

第8回：道徳科の指導方法

第9回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（価値内容と教材分析）

第10回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（教材の活用と授業設計）

第11回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案作成の手順と内容）

第12回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案の作成）

第13回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の準備）

第14回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の実施と評価）

第15回：学校全体で取り組む道徳科を要とした道徳教育の推進

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

定期試験（30%）、授業への取り組み及び指導案や小レポート（70%）

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

『小学校学習指導要領解説 道徳編』、『中学校学習指導要領解説 道徳編』、平成29年、文部科学省

【参考文献】

授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。

科目名： < TISE22 > 総合的な学習の時間の指導法

担当教員： 野村 一夫(NOMURA Kazuo)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、総合的な学習の時間のカリキュラム上の位置付けや「時間」の在り方など、その趣旨やねらいを理解し、小学校学習指導要領に示された目標、内容及び内容の取扱い等を踏まえ、授業設計や指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、地域や学校の実情に応じた全体計画や年間指導計画、単元計画等の作成を通じ、学習指導や評価、環境整備、外部との連携などの在り方について協議し、理解を深めます。

【到達目標】

総合的な学習の時間に係る基礎的な指導理論を理解し、地域や学校の実情を踏まえた授業設計ができる

- 1) 総合的な学習の時間創設の経緯を知り、カリキュラム論に基づく位置付けを説明することができる。
- 2) 総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校や地域の実情に応じた指導計画を作成することができる。
- 3) 探究的な学習過程における指導の在り方を説明することができる。
- 4) 総合的な学習の時間の評価の在り方を述べることができる。
- 5) 総合的な学習の時間に係る指導体制や環境整備、地域との連携・協働などの在り方について述べるることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション(総合的な学習の時間のイメージ) |
| 第2回 | 総合的な学習の時間の経緯と背景 |
| 第3回 | 総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けとカリキュラム論 |
| 第4回 | 学習指導要領における目標、内容及び内容の取扱い |
| 第5回 | 総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力 |
| 第6回 | 総合的な学習の時間における三つの課題 |
| 第7回 | 各学校において目標及び内容等を定める際の留意事項 |
| 第8回 | 総合的な学習の時間の全体計画の作成 |
| 第9回 | 総合的な学習の時間の年間指導計画の作成 |
| 第10回 | 総合的な学習の時間の単元計画の作成 |
| 第11回 | 探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」の視点 |
| 第12回 | 探究的な学習の指導のポイント |
| 第13回 | 総合的な学習の時間の評価の在り方 |
| 第14回 | 総合的な学習の時間の指導体制と時間の弾力的運用の在り方 |
| 第15回 | 総合的な学習の時間に係る環境整備と地域との連携・協働の在り方 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 現代的な諸課題(国際理解、情報、環境、福祉、健康、資源エネルギー、住民の安全、食、科学技術の発展、～)について、課題の背景や現状、内容などを整理し、横断的・総合的な学習としての探究課題を「〇〇について、私の考える探究課題」を作成すること。(30時間)
- 2) 事後学修として、学修内容を振り返り、リフレクションペーパー作成すること。(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

現代的な諸課題に係る「私の考える探究課題(12課題)」の提出(40%)、リフレクションペーパーの提出(10%)、期末定期試験(50%)とします。

リフレクションペーパーについては、返却時にコメントします。

期末定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 平成30年 文部科学省
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間 令和2年
国立教育政策研究所教育課程センター

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： < TISE18 > 特別活動論

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。また、学校における多様な集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点から、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。

学級活動・ホームルーム活動の特質を理解することができる。

児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解することができる。

教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解することができる。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。

【授業計画】

第1回：特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ

第2回：特別活動の歴史の変遷

第3回：特別活動と生徒指導

第4回：特別活動と学級経営

第5回：学級活動の意義・目標・内容

第6回：児童会活動の意義・目標・内容

第7回：クラブ活動の意義・目標・内容

第8回：学校行事の意義・目標・内容

第9回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学級活動を中心に） -

第10回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（児童会・クラブ活動を中心に） -

第11回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学校行事を中心に） -

第12回：学級活動の指導の実際（模擬体験）

第13回：児童会活動の指導の実際（模擬体験）

第14回：学校行事の指導の実際（模擬体験）

第15回：これからの特別活動

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

小レポート（30%）および学期末の最終レポート（70%）による。

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年6月 文部科学省）

「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： < TISE1 > 教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そこで、授業は、学習者の「主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニングの手法を用いて行います。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用を可能とする教育の方法と技術が修得できることをめざします。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. アクティブラーニングの手法を通して、新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 良い授業（保育）の調査からみる教育方法・技術 |
| 第2回 | 子どもの成長・発達における教育の役割 |
| 第3回 | 小学校学習指導要領（幼稚園教育要領）と「生きる力」 |
| 第4回 | 授業（保育）計画に伴う構成要素 |
| 第5回 | 指導（保育）技術に関する構成要素 |
| 第6回 | 教育（保育）目標と評価 |
| 第7回 | アクティブラーニング（遊びこむ保育）の有効性と限界 |
| 第8回 | ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性 |
| 第9回 | ICTを活用した学習（保育）指導案の作成 |
| 第10回 | ICTによるマルチメディア教材の作成 |
| 第11回 | ICTを活用した学習（保育）の成果の記録 |
| 第12回 | 情報社会の光と影・情報モラル |
| 第13回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（1）指導内容・方法 |
| 第14回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（2）人的環境他 |
| 第15回 | 教育の方法及び技術のまとめと展望等 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

以下の数字は授業回数、a.は予習内容、b.は復習内容、()内の数字は、およその時間を示す。

1. a. 人間に対する教育の必要性を文献(例、学問のすすめ他)やWebなどで調べる。自らの経験からよい保育・授業の条件を抽出する(2)。b. 人間の存在理由、及び教育の必要性、並びに良い授業の条件についてレポートにまとめる(2)。
2. a. 幼児期の段階的な成長・発達の特徴及びそれらと教育の役割等を、文献「例、認知発達」やWebなどから調べる(1.5)。b. 直観的思考、具体的操作、形式的操作等の各段階と教育の特徴についてまとめる(2.5)。
3. a. 文科省は、幼稚園及び小学校において学力をどの様に捉えているかを学習指導要領及び文献(例、教科書第1章)で調べる(2)。b. 内容の精選、新しい学力観、生きる力、自主的・対話的な深い学び(例、同第1章1(1))などの用語からまとめる(2)。
4. a. 小学2年生の算数「(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない筆算ができる」という目標で学習展開を想定しながら、指導過程の略案を作成する(1.5)。b. 授業(保育)は、教育目標、内容(学習材)、教師、子ども、教育メディア等の構成要素が融合したシステムとして、繰り上がりのある筆算の学習指導過程を作成する(2.5)。
5. a. 動機付け理論とは何かをWebで調べるとともに、質問に回答できなかった子どもに対する望ましい言葉掛けについて考える(1.5)。b. 授業における子どもの学習意欲を向上する指導(保育)技術について、動機付けとKR情報についてまとめる(2.5)。
6. a. 教育における評価の重要性について文献(例、教科書第7章)やWebから調べる(2)。b. 指導と評価の一体化(P-D-C-A)、授業中での評価、テスト得点による評価、数値によらない評価等についてまとめる(2)。
7. a. アクティブラーニング(AL)、フィンランドの教育、我が国のALの状況等について文献(例、教科書第3章)やWebで調べる(2)。b. 『わが国でALを円滑に導入するための条件を探る』という主題でまとめ、レポートを提出する(3)。
8. a. ICTの利用とその効果について、文献(例、教科書第6章)やWebから調べる(2)。b. Scratchによるプログラミング教育が導入される。その教育の目標をまとめるとともに、PowerPointによる情報の提示や調べ学習での活用についてまとめる(3)。
9. a. ICTを活用した学習指導案の作成方法を文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(1.5)。b. 小学校3年理科・社会の教科書から題材を選び、教科書の口絵・図表等をデータ化して教材化し、Wordソフトで学習指導案にまとめる(2.5)。
10. a. PowerPointソフトによる教育情報(学習材)の提示には、子どもたちの学習にとって、どのような長所及び短所があるかを文献(例、教科書)やWebで調べる(2)。b. このソフトでマルチメディア教材を制作するための絵コンテ(学習フローチャート)を作成する(2)。
11. a. ICTによる学習成果の記録についてどのような方法があるかを文献(例、教科書第6・5 ICT活用の今後の姿)やWebで調べる(1.5)。b. 学習過程を視覚情報として記録する方法が、e-ポートフォリオである。PowerPointの活用によりe-ポートフォリオ・モデルを作成する(2.5)。
12. a. 情報社会には様々な問題があることを文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(2)。b. 情報社会の利点及び問題点、特に学童期に指導しておきたい事項についてまとめる(3)。
13. a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための指導内容・方法に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した指導内容・方法に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(3)。
14. a. 幼・小のAL教育の円滑な実施のための人的環境等に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b. グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した人的環境等に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(2.5)。
15. a. 『AL教育を円滑に実施する条件』の結果を全体会で公表するためのプレゼン用予稿を作成する(2)。b. 『AL教育を円滑に実施するための条件を探る』の実践結果を小論文にまとめる。最後に、自己評価表(チェックリスト)によって評価をする(4)。

【成績の評価】

課題別レポート(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領(文部科学省、平成29年3月)
教育の方法と技術(田中俊也編、ナカニシヤ出版、平成29年10月)

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物(資料)を配布します。

科目名： <K0K09> 生徒・進路指導論
担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。また、授業の内容は、学校における生徒指導の進め方、進路指導・キャリア教育のあり方について、児童生徒の社会的な自己実現に関わる様々な「問題」やトピックスを取り上げながら臨床教育学的に考察するものである。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

この授業では、学校の教育活動全体を通じて行われる生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論と方法について学び、学校において組織的・効果的な生徒指導と進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置づけ
 - 第2回：生徒指導の方法原理
 - 第3回：生徒指導と教育相談
 - 第4回：生徒指導と進め方(1) - ほめと叱りの人間学
 - 第5回：生徒指導の進め方(2) - 集団づくりと生徒指導
 - 第6回：生徒指導の組織的な取り組みと学校内外の連携
 - 第7回：生徒指導上の「問題」 - 不登校を中心に
 - 第8回：生徒指導上の「問題」 - いじめを中心に
 - 第9回：生徒指導ケーススタディー - 小学校の事例 -
 - 第10回：生徒指導ケーススタディー - 中学校の事例 -
 - 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置づけ
 - 第12回：職業に関する体験活動とキャリア教育
 - 第13回：進路指導・キャリア教育の組織的な推進体制と連携
 - 第14回：学校における異年齢集団活動
 - 第15回：生涯を通じたキャリア形成とキャリア・カウンセリング
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと(1時間)。

【成績の評価】

学期末試験(80%)と授業内の小レポート(20%)による総合評価
なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『生徒指導提要』教育図書(平成22年3月)

【参考文献】

随時資料を配布する

科目名： <KOK03> 教育相談

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

教育相談は、幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠である。授業では発達段階に即しつつ、個々の特性や課題を適切に捉えるための基礎的知識や、保護者や関係機関と連携して幼児・児童を支援するために必要な知識を身につける。また、複雑化する教育相談に関する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて体験的な活動も取り入れ、子どもの心理的成長を支える予防的援助について学習する。

【到達目標】

到達目標は以下の4点である。

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することができる。
4. 学校での生徒に対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 教育相談とは
- 第2回 児童生徒理解のための心理学
- 第3回 アセスメント
- 第4回 カウンセリング
- 第5回 コンサルテーション
- 第6回 ソーシャルスキル教育
- 第7回 ストレスマネジメント教育
- 第8回 キャリア教育
- 第9回 不登校
- 第10回 いじめ
- 第11回 発達障害
- 第12回 学校の危機管理
- 第13回 学級経営によるこどもの援助
- 第14回 Q-Uと構成的グループエンカウンター
- 第15回 学校教育と教育相談

定期試験

【授業時間外の学習】

指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。(毎回2時間)
内容についての小レポートを毎回課すので復習をし、まとめて提出すること。(毎回2時間)

【成績の評価】

学期末試験(80%)と小レポート(20%)

【使用テキスト】

授業時間中に資料を配布する。

【参考文献】

- 絶対役立つ教育相談(2017年10月 藤田哲也監修 ミネルヴァ書房)
- 生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省 教育図書)
- 初めて学ぶ教職 教育相談(2019年3月 吉田武男監修 ミネルヴァ書房)
- 新訂版 学校教育相談入門(2014年5月 有村久春 金子書房)

科目名： < JISS5 > 教育実習事前事後指導 【幼】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。保育・教育に携わる者として豊かな人間性を養うよう努めていきましょう。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
 2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
 3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
- 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要 |
| 第3回 | 保育実践の要件 |
| 第4回 | 保育を計画する 部分実習 |
| 第5回 | 保育を計画する 研究保育 |
| 第6回 | 保育の実践 |
| 第7回 | 実習日誌の実際 |
| 第8回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第9回 | 教育実習の振り返り |
| 第10回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第11回 | 幼児同士のトラブルの対応 (事例研究) |
| 第12回 | 実習日誌の作成 |
| 第13回 | 教育実習に向けて |
| 第14回 | 指導計画の作成 - 日案 |
| 第15回 | 保育の実践 研究保育 |
| 第16回 | 保育の実践 全日保育 |
| 第17回 | 教育実習の振り返り |
| 第18回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第19回 | 教育実習報告会に向けて |
| 第20回 | 教育実習報告会 |
| 第21回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第22回 | 幼児理解と援助 (事例研究) |
| 第23回 | まとめと今後の課題 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(各1時間)

部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出します。(10時間)

また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。(10時間)

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ(50%)、実習レポート(50%)

なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： <JISS6> 教育実習事前事後指導 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行う。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざす。2年次に履修した「学校支援ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにする。

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要・心得・態度等 |
| 第3回 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 |
| 第4回 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 |
| 第5回 | 各種トラブル等の具体的解決策 |
| 第6回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第7回 | 教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ |
| 第8回 | 指導計画・事例研究 |
| 第9回 | 模擬授業のあり方 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（日誌の整理） |
| 第11回 | 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状） |
| 第12回 | 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成） |
| 第13回 | 教育実習報告会に向けて（印刷、製本） |
| 第14回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第15回 | 自己評価と今後の課題について |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、指導案作成時間として毎回1時間程度は、作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： <JISS7> 教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 第1週 | 1 | 実習園の概要を知る |
| | 2 | 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 | 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 | 発達特性により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る |
| | 5 | 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 | 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| | 7 | 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| 第2週 | 1 | 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 | 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 | いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 | 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 | 部分実習をする |
| | 6 | 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 | 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）

毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS8>教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
教育実習は、教育実習の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【到達目標】

- (1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。
幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
学級担任の補助的な役割を担うことができる。
- (2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。
様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 第1週 | 1 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかり方を知る |
| | 5 季節の行事に関する保育を知る |
| | 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| | 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| 第2週 | 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 実習反省会・お別れ会 |
| | 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）
事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。
実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： < JISS9 > 教育実習
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、教育実習・の実習経験を生かして、さらに子どもの特性や発達への理解を深め、教職の専門性の理論を学ぶとともに実践力を身に付けていくことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、指導技術の向上を図るとともに、広い視野に立った幼稚園教育のあり方について学習し、将来、幼稚園の教員としての使命を認識し、保育の楽しさと責務を体感することをめざします。

【到達目標】

(1)事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。

教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解できる。

(2)幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(3)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。

【授業計画】

事前事後指導

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 実習・の課題の抽出と目標の設定 | 4 保育の展開と教師の援助 |
| 2 保育の記録 | 5 指導計画の評価・改善 |
| 3 指導計画の作成 | 6 実習後の振り返りと自己課題の明確化 |

第1週 1 幼稚園の教育方針や特色ある保育について理解する

2 幼稚園教諭の職務内容について理解する

3 教育課程と指導計画について理解する

4 全日保育の計画を立案し、実践する

5 研究保育の計画を立案し、実践する

6 学級経営について理解する

7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する

8 その他教員として必要な事項について理解する

第2週 1 保育室の環境整備について理解する

2 全日保育、研究保育の計画を立案し、実践する

3 地域との連携、幼稚園の社会的意義を理解する

4 小学校との連携について理解する

5 子育て支援についての現状を知る(預かり、延長、未就園児保育等)

6 人権・同和教育、特別支援教育について理解する

7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する

8 実習反省会・お別れ会

9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎日、実習日誌を記録することによって、一日を振り返り、課題を見出して、明日の実習に生かします。様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。(15時間)

【成績の評価】

実習園の評価（60％）、実習日誌・提出物（20％）、実習状況（20％）により評価をします。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS10> 教育実習 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。
教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていく。また、カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすとともに、教室での学びを教育実践と関連づけて理解することをめざす。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進める。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
 - 第2回：指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
 - 第3回：学級の実態と学級経営
 - 第4回：指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
 - 第5回：指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
 - 第6回：指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
 - 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
 - 第8回：指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
 - 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等）
 - 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動）
 - 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動）
 - 第12回：授業研究（選択した教科の学習指導案の作成）
 - 第13回：授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成）
 - 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
 - 第15回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第16回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第17回：研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価
 - 第18回：研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価
 - 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
 - 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理
- 以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。
気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(令和2年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： < KYOU18 > 教職実践演習（小）

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 七條 正典(SHICHIJO Masanori), 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修活動を通して、身に付けた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものである。1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図る。

なお、後期開講であるが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがある。

また、本授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目で、小学校、特別支援学校等の現場での経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

【到達目標】

1. 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
2. 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
3. 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付けることができる。
4. 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を高めることができる。

【授業計画】

授業計画 以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 第1回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1)
教員に求められるマナーや社会性 | 模擬面接 |
| 第2回 | 小学校の教育内容の指導力に関する事項(1)
小学校現場の課題把握 | 小学校教員との交流 |
| 第3回 | 教職を取り巻く現代的課題
本演習の目的と進め方 | 到達目標について討議、ワークシートの作成 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1)
講話 | 現職教員と学校現場の課題について討議 |
| 第5回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2)
講話 | |
| 第6回 | 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項(3)
教育行政関係職員との討議 | 小学校管理職との討議 |
| 第7回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2)
不登校対策(適応指導教室訪問) | |
| 第8回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3)
ストレスとの付き合い方(講話・演習) | |
| 第9回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(1)
特別な支援を必要とする児童の理解(講話) | 同(演習) |
| 第10回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(2)(学校訪問)
学校、学級経営の理解(講話) | 若年教員等との懇談会 |
| 第11回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(3)
学級経営計画について(講話) | 学級経営計画の作成、発表、討議 |
| 第12回 | 教育内容の指導力に関する事項(2)
教育課程の編成原理等について(講話) | 教育改革の動向(講話) |
| 第13回 | 教育内容の指導力に関する事項(3)
教科内容等の指導力について検討 | 模擬授業 |
| 第14回 | 教育内容の指導力に関する事項(4)
新しい教育方法や技術の検討 | |
| 第15回 | 教員に求められる資質・能力のまとめ
求められる教師像のまとめ発表 | 総括 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

各回について、1時間程度の復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。

【成績の評価】

討議や発表における参加度(50%)や毎回のまとめ(30%)、ワークシート(20%)によって評価。まとめやワークシートは、その都度添削して授業時間に返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年3月告示 文部科学省)

【参考文献】

適宜紹介、資料として配付する。

科目名： < JISS20 > 介護体験

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は、介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間行います。本科目では、介護等体験実習及び実習の事前学習、事後学習を行います。事前学習では、介護等体験の心得、特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解、実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し、レポートにまとめて報告します。この科目は、小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には、実習費など約1万円が必要になります。介護体験を通じて、教育者に求められる様々な人々とコミュニケーションを図るための態度や姿勢を身に付け、人間性の向上を目指し自律的に学ぶ意欲を育みます。

【到達目標】

特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち、介護等を体験することにより、

1. 特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び、人との関わり、援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に獲得することを目指す。
2. 教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を高めることができる
3. 教育現場で求められる共生社会をめざす姿勢や視点を獲得できる

【授業計画】

介護体験は、後期に社会福祉施設、特別支援学校へ行きますが、前期から事前指導が行われます。6月頃から開始しますので、掲示板を確認し、事前指導には必ず出席するようにしてください。事前指導へ出席できない学生は、実習を行うことができませんので注意してください。詳細については、履修ガイドを確認してください。

事前学習(10回程度予定)

- ・介護等体験に関するガイダンス
- ・介護等体験の心得について学ぶ
- ・特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ
- ・社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ

介護等体験

- ・特別支援学校(2日間)、社会福祉施設(5日間)

事後学習(2回程度予定)

- ・体験レポートの提出、報告会

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の直前には、事前学習で学んだことを再度確認することを求めます(1時間)。また実習後には、体験レポート作成や実習先への礼状書きなどを自宅学習で行います(3時間)。

【成績の評価】

事前・事後学習の受講態度(35%)、課題の提出状況(50%)、報告会での発表(15%)などを総合して成績を評価します。

課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部『介護体験の手引き』

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： < JISS3 > 学校支援ボランティア

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。

3年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としている。

香川県内の小学校や教育支援センターの要請を受けて行われており、具体的には、要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行う。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、本学部カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものである。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。
2. 学校現場での実践を通して、よりよく問題を解決する教員としての資質や能力を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 学校支援ボランティア配置についての説明会
- 第4回 学校支援ボランティア配置についての連絡調整
- 第5回 学校支援ボランティアの意義と目的
- 第6回 学校支援ボランティアの形態・内容・方法
- 第7回 支援者としての心得・態度
- 第8回 支援者としての留意点
- 第9回 担当学校の概要
- 第10回 担当学校の教育計画等について
- 第11回 指導・支援記録について
- 第12回 指導・支援記録のとり方の実際
- 第13回 学校生活のリズムについて
- 第14回 学校生活のリズムと週時程
- 第15回 子どもの実態把握について
- 第16回 子どもの実態把握の仕方
- 第17回～第28回 学校の要請に応じたボランティア活動
- 第29回 まとめ・学んだこと(報告会前半)
- 第30回 まとめ・学んだこと(報告会後半)

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

指導・支援結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけでなく、課題を見つけ、次週での具体的対応策を考える。

【成績の評価】

活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録(40%)、ボランティアへの参加状況及び参加態度等(60%)で評価する。学校支援ボランティア参加報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A (平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介、資料として配布する。

科目名： <JISS4> 学校支援ボランティア

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。

前期に引き続いて、担当校の要請に沿った支援・援助に努めるとともに、自らの課題を見つけ主体的に取り組んでいく。そこから、教科等の学習場面や生活場面における教師の支援・援助のあり方、また、児童の発達についての理解を深め、児童の実態把握の方法や技術などを学修する。これらの学修を通して、本学部がカリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすものである。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の修得できる。
2. 学校現場での実践を通して、より良く問題を解決する教師としての資質や能力を身に付けられるようにするとともに、教育実習に向けて自主的に学ぼうとする態度を養うことができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成）
- 第2回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の検討）
- 第3回 学校等との打ち合わせ（学校の諸計画）
- 第4回 学校等との打ち合わせ（日程調整）
- 第5～12回 要請に応じたボランティア活動
- 第13回 管理職との面談（活動報告）
- 第14回 管理職との面談（指導助言）
- 第15～24回 要請に応じたボランティア活動
- 第25回 教科指導への参加とそのポイント
- 第26回 教科指導への参加と支援活動
- 第27回 生徒指導のポイント
- 第28回 生徒指導実践例
- 第29回 まとめ 報告会（前半）
- 第30回 まとめ 報告会（後半）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・ 自らのテーマをチェックし、自分なりに目標達成のためのポイントを用意して支援・援助に参加する。
- ・ 支援・援助結果について記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身に付ける。
- ・ 日常的に子どもの言動に注意し、メモを取る習慣を付け、児童理解に努める。

【成績の評価】

活動への参加状況及び意欲と態度(60%)、支援・援助記録(20%)、報告会の資料作成、参加態度(20%)で評価。支援・援助記録、報告資料の添削、報告会を講評して、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A(平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介又は資料として配布する。